

五四	有機化學	
五五	分析化學	
五六	無機及分析化學	
五七	寫真化學	
五八	無機製造化學第一部	無機酸工業、アルカリ工業
五九	無機製造化學第二部	無機工業藥品
六〇	無機製造化學第三部	硫酸工業
六一	有機製造化學第一部	乾餾工業、タール工業、染料工業
六二	有機製造化學第二部	鑄油工業
六三	有機製造化學第三部	有機工業藥品
六四	有機製造化學第四部	製糖工業、製紙工業、油脂工業
六五	應用電氣化學	人工絹糸、セルロイド、樹脂、塗料、ゴム
六六	醱酵菌學	
六七	化學工業機械	
六八	金屬工學汎論	
六九	物理冶金學	
七〇	冶金學第一部	鐵及非鐵冶金學一般
七一	冶金學第二部	銅、金、銀

類

七二	冶金學第三部	鉛、亞鉛、錫、其他
七三	鐵冶金學第一部	鐵冶金學一般
七四	鐵冶金學第二部	鐵冶金學補講
七五	電氣冶金學	
七六	電氣鐵冶金學	
七七	金屬材料學第一部	金屬材料學一般
七八	金屬材料學第二部	金屬材料學補講
七九	鑄造法	
八〇	探礦學	
八一	選礦學第一部	選礦法一般
八二	選礦學第二部	磁氣選礦法及洗炭法
八三	應用礦物學	
八四	冶金原料學	
八五	燃料及耐火物	
八六	冶金機械	
八七	金屬工學機械設計法	
八八	材料運搬法	
八九	建築構造	



第		
九〇	工業經濟	前期
九一	機械工場管理法	前期
九二	化學工場管理法	前期
九三	電氣法令	前期
九四	鑛山法令	前期
九五	機械工學特別講義	前期
九六	電氣工學特別講義	前期
九七	化學工學特別講義	前期
九八	金屬工學特別講義	前期
九九	機械工學計畫及製圖第一部	前期
一〇〇	機械工學計畫及製圖第二部	中期
一〇一	機械工學計畫及製圖第三部	後期
一〇二	電氣工學計畫及製圖第一部	後期
一〇三	電氣工學計畫及製圖第二部	後期
一〇四	化學工學計畫及製圖	後期
一〇五	金屬工學計畫及製圖第一部	後期
一〇六	金屬工學計畫及製圖第二部	後期
一〇七	工作實習	後期

二		
一〇八	應用化學實習	小規模實驗
一〇九	機械工學實驗第一部	中規模實驗
一一〇	機械工學實驗第二部	大規模實驗
一一一	機械工學實驗第三部	一般實驗
一一二	機械工學實驗	電氣磁氣實驗
一一三	電氣工學實驗第一部	電氣機械實驗
一一四	電氣工學實驗第二部	電力及電氣應用實驗
一一五	電氣工學實驗第三部	一般實驗
一一六	電氣工學實驗	理論化學實驗
一一七	化學實驗第一部	無機化學實驗
一一八	化學實驗第二部	有機化學實驗
一一九	化學實驗第三部	分析實驗
一二〇	化學實驗第四部	工業分析實驗
一二一	化學實驗第五部	無機及理論化學實驗
一二二	化學實驗第六部	冶金基本分析實驗
一二三	化學實驗第七部	冶金分析實驗
一二四	化學實驗第八部	
一二五	無機製造化學實驗	



類	
一一六	有機製造化學實驗
一一七	應用電氣化學實驗
一一八	應用礦物學實驗
一一九	冶金原料學實驗
一二〇	物理冶金實驗第一部
一二一	物理冶金實驗第二部
一二二	冶金實驗
一二三	乾式試金實驗
一二四	材料強弱實驗
一二五	機械工學研究第一部
一二六	機械工學研究第二部
一二七	電氣工學研究
一二八	製造化學研究
一二九	金屬工學研究
一三〇	學外實習

上記専門學科目ノ外人格ノ修養國家思想及常識ノ涵養ニ資スヘキ事項ニ關シ  
共通講義ヲ開キ隨意聽講セシム

第六條 學生ハ前條所掲ノ科目ヲ自由ニ選擇シテ之ヲ學修スルコトヲ得但シ第  
二類ノ科目ニアリテハ擔任教官ニ於テ必要ナル豫備科目ヲ學修セリト認ムル  
モノ、中ヨリ人員ヲ限リ學修者ヲ決定ス

第七條 學生ハ每學期ノ初ニ於テ其ノ學修セントスル科目ヲ當該科目擔任教官  
ニ申出ツヘシ

第三章 入學轉學在學

第八條 左ニ記載スル者ハ其ノ順位ニ依リ本學部ニ入學スルコトヲ得但シ入學  
志望者ノ數收容定員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

第一、高等學校高等科理科ヲ卒業シタル者及舊高等學校令ニ依ル高等學校大  
學豫科第二部ヲ卒業シタル者

第二、高等學校高等科文科ヲ卒業シタル者

第九條 左ニ記載スル者ハ前條ノ入學志望者ヲ收容シ尙缺員アル場合ニ限り入  
學ヲ許可ス但シ入學志望者ノ數收容定員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

一、高等學校高等科理科ニ準スル大學豫科ヲ卒業シタル者ニシテ當該大學ノ  
許可ヲ得タル者



- 一、高等師範學校理科第一部第二部又ハ專門學校程度ノ工業學校ヲ卒業シタル者
- 一、本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタルモノニシテ臨時施行スル檢定試驗ニ合格シタル者
- 第十條 第八條及第九條ニ依リ選抜試驗ヲ行フ場合ニハ高等學校高等科理科ノ授業科目中ノ三科目以上ニ就キ之ヲ施行ス
- 外國語ノ試験ヲ行フ場合ニアリテハ志望者ノ選擇ニ依リ英佛獨語ノ中任意其一ヲ選ハシム
- 第十一條 第八條ニ依ル入學志望者ハ出身學校ヲ經由シ二月十五日限り願書ヲ差出スヘシ同條ニ規定セル資格ヲ有スルモノニシテ二月十六日以後四月五日迄ニ願書ヲ提出セル者ハ第九條ニ依ル者ト同様ニ取扱フ
- 第九條ニ依ル入學志望者ヲ募集スル場合ニハ二月十六日以後ノ官報ニ之ヲ公告ス
- 前項ニ依ル入學志望者ハ四月五日限り願書ヲ差出スヘシ
- 第十二條 帝國大學學生ニシテ當該大學學部長ノ許可ヲ得テ本學部ニ轉學ヲ出

- 願スル者アルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 前項ニ依リ入學セル者ノ大學令第十條ニ依ル在學年數ノ計算ニ關シテハ他ノ學部ニ於ケル在學年數ノ全部又ハ一部ヲ通算スルコトヲ得
- 第十三條 入學又ハ轉學ノ許可ヲ得タル者ハ入學料金拾圓ヲ納ムヘシ
- 第十四條 入學又ハ轉學ノ許可ヲ得タル者ニハ所定ノ宣誓ヲ行ハシメ學籍簿ニ登錄ス
- 第十五條 疾病其ノ他ノ事故ニ依リ三箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ休學ヲ出願スルコトヲ得但シ疾病ニ依ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第十六條 休學期間内ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ復學スルコトヲ得
- 第十七條 學士ノ資格ヲ得タル者ハ其ノ學籍ヲ除ク
- 第十八條 他ノ帝國大學學部ニ轉學セントスル者ハ其ノ理由ヲ具シ學部長ニ出願スヘシ
- 第十九條 退學セントスル者ハ其理由ヲ具シ出願スヘシ
- 第二十條 左ノ場合ニ於テハ總長ノ認可ヲ得テ除籍ス



一、疾病其ノ他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナシト認定セラレタルトキ  
 二、在學六箇年ヲ超ユルトキ  
 但シ兵役ニ服スル爲休學シタル期間ハ通算セス第十二條ニ依リ轉學ヲ許可セラレタルモノニ對シテハ他ノ學部ニ於ケル在學年數ヲ通算ス  
 第二十一條 品行不良學業懈怠等ノ故ヲ以テ懲罰ヲ要スト認定シタル者アルトキハ總長ハ學部長ヲシテ之ヲ譴責シ若クハ之ニ停學又ハ退學ヲ命セシム

第四章 學士稱號及學士試驗

第二十二條 大學令第十條ニ依リ學士ノ資格ヲ得ントスル者ノ爲ニ本學部ニ於テ學士試驗ヲ行フ

學士試驗ニ合格シタル者ハ工學士ト稱スルコトヲ得

第二十三條 學士試驗ハ左ノ四學科ノ一ニ就キ之ヲ行フ

機械工學科  
 電氣工學科  
 化學工學科  
 金屬工學科

前項ノ二學科以上ニ互リ學士試驗ヲ受ケントスルモノアルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 學士試驗ヲ受ケントスルモノハ其ノ受験學科ヲ定メ豫メ學部長ニ申請スヘシ

第二十五條 學士試驗ハ科目試驗及論文試驗ヨリ成ル

第二十六條 科目試驗ハ科目擔任教官適宜ノ方法ニ依リ之ヲ施行ス  
 筆記試験ヲ行フ場合ニハ各學期ノ終リニ於テ豫メ日時ヲ定メ之ヲ施行ス

第二十七條 各學科ノ科目試験細目左ノ如シ

機械工學科

科目番號	試 驗 科 目
一	數 學
二	力 學
六	内力及彈性學
一四	機 構 學
一五	機械力學



一六	材料及工作學
一七	熱力學
一八	水力學
二〇	熱機關第一部
二一	熱機關第二部
二二	熱機關第三部
二三	熱機關第四部
二四	水力機械第一部
二五	水力機械第二部
二八	船用機械
二九	汽車
三〇	紡織機械
九九	機械工學計畫及製圖第一部
一〇〇	機械工學計畫及製圖第二部
一〇一	機械工學計畫及製圖第三部
一〇九	機械工學實驗第一部
一一〇	機械工學實驗第二部
一一一	機械工學實驗第三部

一一六

電氣工學實驗

備考

一、機械工學計畫及製圖並ニ機械工學實驗ハ第一部第二部第三部ノ順序ニ從テ受驗シ同一學年中各一部以上受驗スルコトヲ得ス  
 二、括弧内ニアル科目ハ任意其ノ一ヲ選擇受驗セシム

電氣工學科

科目番號	試 驗 科 目
一	數 學
二	力 學
八	機械工學通論
三四	電氣理論第一部
三五	電氣理論第二部
三八	電氣機械第一部
三九	電氣機械第二部
四〇	電氣機械第三部
四四	電力發生及分配第一部



- 四五 電力發生及分配第二部
- 四六 電力應用第一部
- 四七 電力應用第二部
- 五〇 電氣通信
- 六五 應用電氣化學
- 一〇二 電氣工學計畫及製圖第一部
- 一〇三 電氣工學計畫及製圖第二部
- 一一三 電氣工學實驗第一部
- 一一四 電氣工學實驗第二部
- 一一五 電氣工學實驗第三部

備考 括弧内ニ示セル科目ハ任意三科目ヲ選擇受験セシム

化學工學科

科目番號	試 驗 科 目
三	數學及力學
八	機械工學通論
九	電氣工學通論

- 一〇 金屬工學通論 (甲)
- 一一 製造化學概論第一部
- 一二 製造化學概論第二部
- 五二 理論化學
- 五三 無機化學
- 五四 有機化學
- 五五 分析化學
- 五八 無機製造化學第一部
- 五九 無機製造化學第二部
- 六〇 無機製造化學第三部
- 六一 有機製造化學第一部
- 六二 有機製造化學第二部
- 六三 有機製造化學第三部
- 六四 有機製造化學第四部
- 六五 應用電氣化學 (甲)
- 八三 應用礦物學 (甲)
- 一〇四 化學工學計畫及製圖
- 一一七 化學實驗第一部

(甲)

(乙)



二二八	化學實驗第二部
二一九	化學實驗第三部
一二〇	化學實驗第四部
一二一	化學實驗第五部
一二五	無機製造化學實驗 (甲)
一二六	有機製造化學實驗 (乙)
一二七	應用電氣化學實驗
備考 (甲)或ハ(乙)ハ任意其ノ一ヲ選擇受験セシム	
金屬工學科	
科目番號	試 驗 科 目
三	數學及力學
五	內力及彈性學通論(乙二)
八	機械工學通論(乙二)
九	電氣工學通論
五二	理論化學
五六	無機及分析化學

六九	物理冶金學
七〇	冶金學第一部 (乙二)
七一	冶金學第二部 (甲二)
七二	冶金學第三部 (甲二)
七三	鐵冶金學第一部 (甲二)
七四	鐵冶金學第二部 (甲二)
七五	電氣冶金學 (甲一)
七六	電氣鐵冶金學 (甲二)
七七	金屬材料學第一部
七八	金屬材料學第二部 (乙二)
七九	鑄造法 (甲二)(乙二)
八一	選鑄學第一部 (甲二)
八二	選鑄學第二部 (甲二)
八四	冶金原料學
八五	燃料及耐火物
二〇五	金屬工學計畫及製圖第一部
二〇六	金屬工學計畫及製圖第二部 (乙二)
二二三	化學實驗第七部



二二四 化學實驗第八部 (甲) (20211)

二二〇 物理冶金實驗第一部

二二二 物理冶金實驗第二部

備考 (甲) (甲) (乙) 或ハ(乙) (乙) ハ任意其ノ一組ヲ選擇受験セシム

第二十八條 第二十三條第二項ニ依ルモノ、受験科目ハ學部長其ノ都度之ヲ定ム  
第二十九條 論文試験ハ研究業績ノ考查ヲ以テ之ニ充ツ但シ研究ノ題目及其ノ方法ニ就テハ豫メ教官ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

第五章 授業料

第三十條 授業料ハ一學年金七拾五圓トス

第三十一條 授業料ハ一學年ヲ左ノ三期ニ分チ之ヲ徵收ス

第一期 自八月 至十月 金貳拾五圓

第二期 自十一月 至二月 金貳拾五圓

第三期 自三月 至五月 金貳拾五圓

第三十二條 一期間ヲ通シテ休學シタルトキハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徵收セス但シ中途復學シタル者ハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ徵收ス

授業料月割額ハ一ヶ月金七圓五拾錢トス  
退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十三條 授業料ハ別ニ定メタル期日ニ於テ之ヲ納付スヘシ其期日後ニ入學

又ハ復學シタル者ハ其ノ際之ヲ納付スヘシ

第三十四條 授業料ヲ所定ノ期日ニ納付セサル者アルトキハ催告ヲ爲シ仍納付セサルトキハ之ヲ除籍ス

第六章 學資補給

第三十五條 學術研究上必要ト認ムル場合ニ於テハ學資ノ補給ヲナスコトアルヘシ

第七章 聽講生

第三十六條 第五條ニ掲ケタル本學部ノ第一類授業科目中一乃至數科目ヲ選ビ

聽講セントスルモノニシテ相當學力アル者ハ聽講生トシテ之ヲ收容スルコトアルヘシ

聽講生タルコトヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ

第三十七條 聽講セシ科目ニ就テハ希望ニ依リ科目擔任教官其ノ事實ヲ證明ス



第三十八條 聽講生ノ授業料ハ各學期金貳拾圓トシ各學期ノ初ニ於テ之ヲ納付スヘシ

第三十九條 第三十二條乃至第三十四條ノ規程ハ聽講生ニ之ヲ適用ス

第八章 專攻生

第四十條 本學部ニ於テ或科目ニ就キ特ニ研究セント欲スル者ニシテ關係科目擔任教官ニ於テ相當研究能力ヲ有スト認メタル者ハ專攻生トシテ之ヲ收容スルコトアルヘシ

專攻生タルコトヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金拾圓ヲ納ムヘシ

第四十一條 專攻生ハ研究費ヲ納付スヘシ前項ノ研究費ハ研究ノ事項ニ依リ其ノ額ヲ定ム

第九章 服制

第四十二條 學生ハ本學部所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

工學部學科課程表

本學部各學科ノ課程表左ノ如シ  
但シ左表ニ於ケル科目ノ種類及學修ノ順序ハ各學科ノ學士試驗ヲ受ケントス

機械工學科

ル者ノ便宜ニ依リ表示セルモノニシテ表中ノ數字ハ每週ノ時間數ヲ表ハシ點線ハ當該學期間他ノ授業以外ノ時間ニ之ヲ課スルコトヲ示ス

番 科 目 號	科 目 名	第 一 年 度			第 二 年 度			第 三 年 度		
		第 一 學 期	第 二 學 期	第 三 學 期	第 一 學 期	第 二 學 期	第 三 學 期	第 一 學 期	第 二 學 期	第 三 學 期
一	數 學		三	二		二				
二	力 學		一	一		二				
三	力 學 特 論								一	一
四	內 力 及 彈 性 學			三		二				
五	內 力 及 彈 性 學 特 論								一	一
六	電 氣 工 學 通 論		二							
七	電 氣 工 學 通 論			二						
八	金 屬 工 學 通 論					二			二	
九	工 作 法		二							
一〇	機 構 學		二							
一一	機 械 力 學			一						
一二	機 械 力 學					一				







○諸規程 工學部學科課程表

番科	科目	日名	第一學期	第二學期	第三學期	第一年度	第二年度	第三年度
一〇	機械工學實驗	第二部					六	
一一	機械工學實驗	第三部					六	
一二	電氣工學實驗	實驗					三	
一三	機械工學研究	第一部					三	
一四	機械工學研究	第二部						
一五	學外實習	實習						

備考

一、電氣工學ニ關スル講義ハ以上所載ノ外各自希望ノ科目ニ就キ第二及第三年度ニ於テ隨時聽講スルヲ便トス

二、學外實習ハ休暇中隨意之ニ從事スヘキモノトス

電氣工學科

番科	科目	日名	第一學期	第二學期	第三學期	第一年度	第二年度	第三年度
一	數	學	三	二	二			
二	力	學	一	一	二			

○諸規程 工學部學科課程表

番科	科目	日名	第一學期	第二學期	第三學期	第一年度	第二年度	第三年度
五	內力及彈性學	通論				二		
八	機械工學	通論				三		
一〇	金屬工學	通論						二
一三	工	作	二	一				二
三四	電氣理論	第一部	二	二				
三五	電氣理論	第二部	二	二				
三六	電氣理論	特論			二			二
三七	電氣磁氣測定法		一	一				
三八	電氣機械	第一部		二				
三九	電氣機械	第二部		二				
四〇	電氣機械	第三部		二				
四一	電氣機械	設計法		二				
四二	電氣機械	試驗法		一				
四三	電氣機械	特論			三			二
四四	電力發生及分配	第一部	二	二				











備考

一、學外實習ハ休暇中隨意之ニ從事スヘキモノトス

金屬工學科

番 科 目 號	科 目 名	第一年度			第二年度			第三年度		
		學 期 一	學 期 二	學 期 三	學 期 一	學 期 二	學 期 三	學 期 一	學 期 二	學 期 三
三	數 學 及 力 學	二	二	二	二	二	二	二	二	二
五	內力及彈性學通論					二				
八	機 械 工 學 通 論					三				
九	電 氣 工 學 通 論					二				
二 三	工 作 法					二				
五 二	理 論 化 學					三				
五 六	無 機 及 分 析 化 學					三				
六 八	金 屬 工 學 汎 論	四								
六 九	物 理 冶 金 學		二			二				

七 〇	冶 金 學 第 一 部 (乙)					三														
七 一	冶 金 學 第 二 部 (甲)					三														
七 二	冶 金 學 第 三 部 (甲)					四														
七 三	鐵 冶 金 學 第 一 部 (甲)					三														
七 四	鐵 冶 金 學 第 二 部 (甲)					四														
七 五	電 氣 冶 金 學 (甲)					三														
七 六	電 氣 鐵 冶 金 學 (甲)					四														
七 七	金 屬 材 料 學 第 一 部					三														
七 八	金 屬 材 料 學 第 二 部 (乙)					二														
七 九	鑄 造 法 (甲)(乙)					三														
八 〇	採 礦 學 (甲)					二														
八 一	選 礦 學 第 一 部 (甲)					三														
八 三	選 礦 學 第 二 部 (甲)					二														
八 四	冶 金 原 料 學 及 實 驗					三														
一 二 九						三														







第一章 學 曆

第一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 自四月一日起至八月三十一日

第二學期 自九月一日起至十二月卅一日

第三學期 自一月一日起至三月三十一日

第三條 學年中休業日左ノ如シ

日 曜 日

春季休業

自四月八日

東北帝國大學創立記念日

六月二十二日

夏季休業

自七月十一日

秋季皇靈祭

自九月十日

神嘗祭

秋分日

天長節祝日

十月十七日

新嘗祭

十月三十一日

冬季休業

自十二月廿五日

紀元節

至一月七日

春季皇靈祭

二月十一日

第二章 入 學

第四條 入學ノ期ハ學年ノ始トス

第五條 左ニ記載スル者ハ其ノ順位ニ依リ本學部ニ入學スルコトヲ得但入學志

望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

一、高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者

二、高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ卒業シタル者

第六條 左ニ記載スル者ハ前條ノ入學志望者ヲ收容シ尙缺員アル場合ニ限り本學部ニ入學スルコトヲ得

一、高等師範學校女子高等師範學校高等商業學校外國語學校其ノ他之ト略

同等程度ノ學校卒業者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認ムル者

二、本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認めタル者ニシテ本學部ニ於テ臨時施行スル檢定試験ニ合格シタル者



前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ  
 第七條 選抜試驗ハ高等學校高等科文科ノ授業科目中ノ三科目以上ニ就キテ之ヲ行フ  
 外國語ノ試験ヲ行フ場合ニ在リテハ志望者ヲシテ英獨佛語中其ノ一ヲ選ハシ  
 第八條 第五條ニ依ル入學志望者ハ出身學校ヲ經由シ二月十五日限り願書ヲ差  
 出スヘシ  
 第五條ニ規定セル資格ヲ有スル者ニシテ二月十六日以後四月五日迄ニ願書ヲ  
 差出シタル者ハ第六條ニ依ル者ト同様ニ取扱フ  
 第九條 第六條ニ依ル入學志望者ヲ募集スル場合ニハ二月十六日以後ノ官報ニ  
 之ヲ公告ス  
 前項ニ依ル入學志望者ハ四月五日限り願書ヲ差出スヘシ  
 第十條 帝國大學學部所定ノ試験ニ合格シタル學士ハ本學部ニ入學スルコトヲ  
 得  
 第十一條 帝國大學ノ學生ニシテ當該學部長ノ許可ヲ得テ本學部ニ轉學セント

スル者アルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ  
 第十二條 外國人ニシテ本章ノ規定ニ依ラスシテ本學部ニ入學セントスル者アルトキハ明治三十四年文部省令第十五號ニ依リ之ヲ許可ス  
 第十三條 第六條第一項第二號ニ依リ檢定試験ヲ要スル者ハ履歷書ト共ニ受験料金拾圓ヲ添ヘ入學願書ヲ差出スヘシ  
 受理シタル受験料ハ之ヲ返付セス  
 第十四條 入學又ハ轉學ノ許可ヲ得タル者ハ入學料金拾圓ヲ納付スヘシ  
 第十五條 入學又ハ轉學ノ許可ヲ得タル者ハ誓式ヲ行ヒ學生簿ニ署名スヘシ  
 第三章 授業  
 第十六條 本學部ニ於テ授業スル學科目左ノ如シ  
 憲法學 國家原論  
 政治學 行政法學  
 國際法學 刑法學  
 刑事政策論 刑事訴訟法論  
 民法學 商法學



民事訴訟法論	破產法論
英法學	獨法學
佛法學	國際私法
日本法律史	西洋法律史
經濟原論	經濟政策論
金融論	交通論
保險論	統計學
經濟史學	經濟學史
地理學概論	經濟地理學
殖民政策論	財政學
社會政策論	社會的立法論
社會運動史	社會學
文化科學概論	自然科學概論
哲學概論	論理學及認識論
西洋古代哲學史	西洋近世哲學史

倫理學	美學及藝術學
東洋藝術史論	西洋美術史論
歌舞音曲史	音樂理論
宗教學	宗教史
法理學	心理學概論
實驗心理學	特殊心理學
教育學	教育史
史學概論	國史學
古文書學	日本思想史論
東洋史學	西洋古代史
西洋近世史	外交史
考古學	印度哲學史
佛敎史	梵語梵文學及巴利語
支那哲學史	支那文學
目錄學	國文學



國語學	英文學
獨文學	佛文學
文學概論	言語學
希臘語	羅甸語
英語	獨語
佛語	

其ノ他右學科目ニ關係アル諸學科目

第十七條 前條ノ學科目ハ九學期ニ配當シテ之ヲ授業ス

每學期ニ於ケル科目ノ配當及授業時間數ハ教授會ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 授業ハ講義演習及實驗ニ依ル演習及實驗ハ之ヲ必要トスル科目ニ就キ授業擔任者之ヲ定ム

第十九條 每學期ノ開始前ニ於テ其ノ學期ニ授業スヘキ科目ノ授業時間數及其ノ授業擔任者ヲ公示ス

臨時講義ニ就キテハ教授會ニ於テ隨時之ヲ定ム

第二十條 學生ハ各自學修スヘキ科目ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得

學生ハ每學期ノ始ニ於テ其ノ選擇セル科目ヲ學部長ニ届出ツヘシ

第二十一條 授業擔任者ハ學修セリト認ムル科目ニ就キテ證明ヲ與フルモノト

第二十二條 他ノ學部ノ學生ハ本學部長ノ許可ヲ得テ本學部ノ科目ヲ學修スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ第二十條及第二十一條ヲ準用ス

第四章 學士試験

第二十三條 學士試験ハ大學令第十條ニ依リ學士ノ稱號ヲ得ントスル者ノ爲ニ之ヲ行フ

第二十四條 試験ヲ分チテ科目試験及卒業試験トス

科目試験ハ當該科目ノ授業ヲ終リタル學期末ニ之ヲ行フ

卒業試験ハ受験者カ二十單位以上ノ科目試験ニ合格シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

前項ノ科目試験中三單位以上ハ外國法學又ハ外國語ニ屬スルコトヲ要ス

第二十五條 卒業試験ハ筆記試験又ハ論文試験トシ受験者ヲシテ其ノ一ヲ選ハ



シム  
筆記試験ヲ受ケントスル者ハ六單位以上ノ科目ヲ選擇シテ豫メ學部長ニ届出ツヘシ

筆記試験ハ受験者ノ選擇シタル科目ニ就キ毎年三月之ヲ行フ  
論文試験ヲ受ケントスル者ハ毎年十二月二十日迄ニ論文ヲ提出スヘシ  
論文試験ハ受験者ノ提出シタル論文ヲ審査シテ之ヲ行フ  
但審査上必要アルトキハ口頭試問ヲ爲スコトアルヘシ

卒業試験ハ學部長ノ指定シタル教官又ハ講師之ヲ行フ

第二十六條 在學三箇年ヲ超ユル者ニ對スル卒業試験ハ教授會ノ決議ニ依リ隨時之ヲ行フコトアルヘシ

第二十七條 試験ノ成績ハ優良、可不可トシ可以上ノモノヲ合格トス  
試験ノ成績ハ之ヲ公表セス

第二十八條 學士試験ニ合格シタル者ハ其ノ受験シタル科目ニ應シ法學士又ハ文學士ト稱スルコトヲ得  
合格者ノ稱スヘキ學士號ニ就キ疑アルトキハ教授會ニ於テ之ヲ決ス

第五章 休學、退學、除籍

第二十九條 學生ニシテ疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ三箇月以上學修スルコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ又ハ事故ヲ詳記シテ休學ヲ出願スルコトヲ得

第三十條 休學ハ兵役ニ服スル場合ノ外ハ一箇年以上ニ互ルコトヲ得ス但特別ノ事情アル者ニ對シテハ總長ノ認可ヲ得テ尙一箇年以内ノ休學ヲ許可スルコトアルヘシ

休學期間内ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ復學スルコトヲ得  
休學期間ハ在學年數ニ通算セス

第三十一條 退學セントスル者ハ其ノ旨願出ツヘシ

第三十二條 品行不良ノ故ヲ以テ懲罰ヲ要スト認定セラレタル者アルトキハ總長ノ許可ヲ得テ之ヲ譴責若クハ停學又ハ退學ニ處ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ總長ノ認可ヲ得テ除籍ス  
一、疾病又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナキ者  
二、在學六箇年ヲ超ユル者



第三十四條 本學部ニ於テ學士ノ資格ヲ得タル者ハ其ノ學籍ヲ失フ

第六章 授業料

第三十五條 授業料ハ一學年金七拾五圓トシ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一期 自四月 至八月 金貳拾五圓

第二期 自九月 至十二月 金貳拾五圓

第三期 自一月 至三月 金貳拾五圓

第三十六條 一期間ヲ通シテ休學シタルトキハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徵收セス但中途復學シタル者ハ其ノ月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ徵收ス

授業料月割額ハ一箇月金七圓五拾錢トス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徵收ス

第三十七條 授業料ハ指定ノ期日ニ之ヲ納付スヘシ其ノ期日後ニ入學又ハ復學シタル者ハ其ノ際ニ之ヲ納付スヘシ

第三十八條 授業料ヲ所定ノ期日ニ納付セサル者アルトキハ催告ヲ爲シ尙納付セサルトキハ之ヲ除籍ス

第七章 聽講生

第三十九條 本學部ノ學科目中若干科目ヲ選ヒ聽講セントスル者アルトキハ試驗ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ志望者ハ履歷書ト共ニ受験料金拾圓ヲ添ヘ二月十五日迄ニ入學願書ヲ差出スヘシ

受理シタル受験料ハ之ヲ返付セス

第四十條 前條ノ試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ但教授會ニ於テ志望者ノ履歷ニ依リ其ノ學力ヲ認定シタル者ニ對シテハ試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

一、國語漢文

二、法學通論、經濟通論又ハ哲學概說

三、英吉利語、獨逸語又ハ佛蘭西語

第二號及第三號ノ科目ハ受験者ヲシテ各其ノ一ヲ選ハシム

第四十一條 聽講生タラントスル者ハ中等學校以上ノ學校ノ卒業者タルコトヲ要ス

聽講生タルコトヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金拾圓ヲ納付スヘシ



第四十二條 聽講生ノ授業料ハ各學期金貳拾圓トシ學期ノ始ニ於テ之ヲ納付スヘシ

第四十三條 聽講生ニシテ聽講シタル科目ニ就キ試験ニ合格シタル者ニハ修業證書ヲ授與ス

聽講生ニシテ成績優良ナル者ハ第六條第一項第二號ノ檢定試験ヲ受クルコトヲ得

第四十四條 授業、休學、退學、除籍及試験ニ關スル規定ハ之ヲ聽講生ニ準用ス

第八章 專攻生

第四十五條 本學部授業擔任者ノ指導ヲ受ケ特殊事項ニ就キ研究セントスル者アルトキハ專攻生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

前項ノ志望者ハ履歷書ヲ添ヘ研究事項ヲ指定シテ入學願書ヲ差出スヘシ

第四十六條 專攻生タルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ教授會ノ承認シタル者ニ限ル

一、帝國大學卒業者

二、大學令ニ依ル學士

三、關係科目擔任者ニ於テ相當研究能力アリト認めタル者

專攻生タルコトヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金拾圓ヲ納付スヘシ

第四十七條 專攻生ノ在學期間ハ一學期トス但研究未了ノ場合ニハ關係科目擔任者及教授會ノ承認ヲ經テ引續キ在學スルコトヲ得

專攻生ハ研究料トシテ各學期ノ始ニ金拾五圓ヲ納付スヘシ

第四十八條 專攻生ニハ願ニ依リ其ノ研究事項ニ就キ證書ヲ授與ス

第九章 服制

第四十九條 學生ハ本學部所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

附則

本規程ハ大正十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校大學豫科卒業ノ者ハ高等學校高等科卒業者ト同等ニ之ヲ取扱フ

法文學部規程說明

第一 學科目

本學部ニ於テ授業スヘキ學科目ノ細別、單位數及授業時間數大凡左ノ如シ



學科	學目	細目	別	單位	數	授業時間數
憲法學	憲法學	帝國憲法論	論		—	三
國家原論	國家原論	國家原論	理		二	二
政治學	政治學	政治學	理		二	二
行政法	行政法	行政法	史		二	二
警察法	警察法	警察法	論		二	二
教育法	教育法	教育法	論		二	二
國際法	國際法	國際法	論		二	二
刑法	刑法	刑法	論		二	二
刑事訴訟法	刑事訴訟法	刑事訴訟法	論		二	二
民法	民法	民法	論		二	二
債權法	債權法	債權法	論		二	三
物權法	物權法	物權法	論		二	三

商法學	商法學	債權法各論、親族法相續	論		—	三
民事訴訟法	民事訴訟法	民法總則、會社法、商行為法、保險法、海商法	論		一、二分	六
破產法	破產法	破產法	論		二分	二
英法	英法	英法	論		二分	二
獨逸法	獨逸法	獨逸法	論		二分	二
佛蘭西法	佛蘭西法	佛蘭西法	論		二分	二
國際私法	國際私法	國際私法	論		二分	二
西方法	西方法	西方法	論		二分	二
日本法	日本法	日本法	論		二分	二
支那法律	支那法律	支那法律	論		二分	二
經濟學	經濟學	經濟學	論		二分	三
金融學	金融學	金融學	論		二分	三
交通保險	交通保險	交通保險	論		二分	二



心理學概論	法理學	宗敎史	宗敎學	音樂論	歌舞曲史	西洋藝術史論	西洋藝術史論	東洋藝術史論	東洋藝術史論	美學及藝術學	倫理學	西洋近世哲學史
同	同	特殊	宗敎史講	宗敎學概	同	同	特殊	西洋美術史概	特殊	美術及藝術學概論	倫理學概	特殊
上	上	義論	義論	上	上	義說	義說	義說	義說	義論	義論	義說
一	一	四	四	一	一	二	一	三	一	三	一	四
二	三	八	二	八	二	二	四	二	六	二	六	二
八	二	三	八	二	二	四	二	六	二	六	二	八

西洋古代哲學史	論理學及認識論	哲學概論	自然科學概論	文化科學概論	社會學	社會運動學	社會的立法	社會政策論	財政學	殖民政策論	經濟地理學	地理學概論	經濟學史	經濟學	統計學	統制學
特殊	同	同	同	同	特殊	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
義說	義說	上	上	上	義論	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
四	一	四	一	一	四	一	一	一	二	分	一	一	一	一	一	一
八	二	八	三	二	八	三	一	二	一	四	一	三	二	三	二	二



○諸規程  
法文學部規程說明

羅	希	言	文	佛	獨	英	國	國	目	支	支	梵	佛	印	考
句	臘	語	學	文	文	文	語	文	錄	那	那	梵	教	度	古
語	語	學	論	學	學	學	學	學	學	文	學	史	史	史	學
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	特	支	同	同	同
											殊	那	殊	殊	殊
											講	哲學	講	講	講
											義	史	義	義	義
											說	概	說	說	說
											上	上	上	上	上
三	三	四	一	五	五	五	四	五	五	四	一	五	二	二	一
六	六	八	三	〇	〇	〇	八	〇	一	〇	八	二	〇	四	二

外	西	西	東	日	古	國	史	教	教	特	實
交	洋	洋	洋	本	文	史	學	育	育	殊	驗
史	近	古	史	思	書	學	論	史	學	心	心
	世	代	學	想	學	論	史	學	學	理	理
	史	史	史	史	論	學	論	史	學	學	學
同	特	特	特	特	同	特	同	同	特	教	同
	殊	殊	殊	殊		殊			殊	育	殊
	講	講	講	講		講			講	學	講
	義	義	義	義		義			義	論	義
	說	說	說	說		論			論	上	上
	上	上	上	上		上			上	上	上
二	四	一	四	一	四	一	一	一	四	一	一
四	八	二	八	二	八	二	二	二	八	二	二

○諸規程  
法文學部規程說明



英 獨 佛

語 語 語  
同 同 同

上 上 上

三 三 三

一 一 一  
二 二 二

備考

- 一、右學科目中若干科目ハ場合ニ依リ二箇年又ハ三箇年ニ一回之ヲ授業スルコトアルヘシ
- 二、外國書講讀ヲ以テ外國語ノ授業ニ代フルコトアルヘシ
- 三、特殊講義ノ記載ナキ科目ト雖モ授業擔任者ニ於テ必要ト認メタルトキハ之ヲ設クルコトアルヘシ但其ノ場合ニ於ケル單位數及授業時間數ハ別ニ之ヲ定ム
- 四、各科目ノ單位數ハ多少之ヲ變更スルコトアルヘシ
- 五、授業時間數ハ三箇年ヲ通算シタル毎週平均授業時間概數ナルヲ以テ各科目ヲ各學期ニ配當スルニ當リテハ多少増減スヘシ
- 六、各科目ノ單位數及授業時間數ハ其ノ授業開始前ニ之ヲ公示ス

第二 學科目ノ選擇

本學部ノ學科目ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ選擇スルヲ適當トス

- 一、本學部ハ學修ノ自由ヲ尊重シテ一定ノ課程ヲ設ケス學生ヲシテ任意ニ學修スヘキ學科目ヲ選擇セシムルカ故ニ學生ハ其ノ自由ヲ善用シテ各自ノ個性ヲ伸暢シ其ノ生活目的ヲ達成センカ爲ニ最モ適切ナル科目ヲ選擇センコトヲ努ムヘク苟モ易キニ就キ難キヲ避クルノ陋習ニ陥ルヘカラス
- 二、學生ハ入學第一年ニ於テ先ツ一般的性質ヲ有スル講義科目ヲ選擇シ第二年以後ニ於テ徐ロニ個性ノ伸暢ト生活目的ノ達成トニ適應シタル主要ノ科目ヲ選定スルヲ至當トス
- 三、學生ニシテ學科目ノ選擇ニ就キ疑問アルトキハ學部長又ハ教官ニ具陳シテ其ノ指導ヲ受クヘシ
- 四、學生ハ學士試驗ニ必要ナル單位以上若干科目ヲ選擇學修スルヲ得策トス
- 五、學生ハ本學部ノ公示スル科目標準類別表ニ依リテ順次科目ヲ選擇學修スルヲ最モ便宜トス科目標準類別表ハ目下作製中ナリ其ノ一二ヲ例示スレハ左ノ如シ

例ノ一







○諸規程 法文學部規程說明

二四六

學科	例ノ二			單位數
	第一學年	第二學年	第三學年	
經濟原論	四	二	一	一、二分
經濟政策論		二	一	一、二分
金融論		二	一	一、二分
經濟史		二	一	一、二分
財政學		四	三	一、二分
統計學		四	三	一、二分
殖民政策	一	三	二	二分
經濟地理學		三	二	二分
交通論		三	二	二分
保險論		三	二	二分
社會立法論	三			二分
憲法學	三			二分

將來經濟學ヲ專攻シ又ハ實業界ニ立タントスル者ハ左ノ標準類別ニ依リテ順次科目ヲ選擇學修スルヲ適當トス

學科	例ノ三			單位數
	第一學年	第二學年	第三學年	
民法學	三	四	四	二
商法學		三	四	二
社會學		三	四	二
哲學概論		三	四	二
文化科學概論		三	四	二
倫理學		三	四	二
政治學		三	四	二
行政學		三	四	二
國際法學		三	四	二
刑法學		三	四	二
史學概論		三	四	二
西洋近世史	六	三	四	二
日本思想史	六	三	四	二
外國語	四	四	四	三
合計	二八又ハ三〇	二八又ハ二九	二二	一三

將來國際法ヲ專攻シ又ハ外交官タラントスル者ハ左ノ標準類別ニ依リテ順次科目ヲ選擇學修スルヲ適當トス

○諸規程 法文學部規程說明

二四七



○諸規程 法文學部規程說明

二四八

目ヲ選擇學修スルヲ適當トス但○印ヲ附シタルハ文官高等試驗外交科ノ受験科  
目ナリ其ノ中民法學行政法學及財政學ハ其ノ一ヲ選フヲ以テ足ル

學科目	授業時間數			單位數
	第一 年	第二 年	第三 年	
○國際法學		四	二	一、二分
○國際私法論			二	二分
○外交史		三		一
○憲法學		三		一
○民法學		三		一
○國家原理				二分
○公法原理				二分
○政治學	四	三		一
○經濟原理				一
○行政法學				一
○財政學				一
○經濟政策論				一
○金融論				一
社會立法學				一

○諸規程 法文學部規程說明

二四九

學科目	授業時間數			單位數
	第一 年	第二 年	第三 年	
哲學概論				一
史學概論				一
文學概論				一
美學概論				一
社會學				一
倫理學				一
宗教學				一
文化科學概論				一
現代史				一
西洋法律史				一
日本思想史				一
近世哲學史				一
外國法學	二	四		一、二分
外國語	二	四		三
合計	二四又八二六	二七又八二九	二〇又八三三	一三、二分



第三 學修及受験

本學部學生ノ學修及受験ニ關スル手續大凡左ノ如シ

- 一 學生ハ入學ト同時ニ在學證ノ交付ヲ受ケ常ニ之ヲ携帶シ授業擔任者ノ要求アルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 二 學生ハ入學ト同時ニ學修簿ノ交付ヲ受ケ授業ノ開始ニ際シ學修セントスル科目ヲ學修簿及所定ノ用紙ニ記載シテ學部ニ差出スヘシ
- 三 學生ハ授業ノ終止ニ際シ所定ノ用紙ニ學修科目ヲ記載シ學修簿ト共ニ授業擔任者ニ提示シテ學修ノ證明ヲ求ムヘシ
- 四 科目試験ヲ受ケントスル者ハ施行期日前ニ所定ノ用紙ニ受験科目ヲ記載シ學修簿ト共ニ之ヲ學部ニ差出スヘシ
- 五 受験者カ當該科目試験ニ合格シタルトキハ學部ハ其ノ旨ヲ學修簿ニ記載シテ之ヲ返付スヘシ
- 六 卒業試験トシテ筆記試験ヲ選ハントスル者ハ毎年二月十五日迄ニ六單位以上ノ受験科目ヲ選擇シテ所定ノ用紙ニ記載シ學修簿ト共ニ之ヲ學部ニ差出スヘシ

六 卒業試験トシテ論文試験ヲ選ハントスル者ハ論文ノ題目ニ就キテ豫メ關係科目授業擔任者ノ承認ヲ經ヘシ

附屬圖書館規程

第一條 東北帝國大學附屬圖書館ハ東北帝國大學所藏ノ圖書ヲ處理ス

第二條 圖書ヲ處理スル爲本館ニ左ノ二部ヲ置キ其ノ部ニ屬スル事務ヲ分掌ス

第一部 本部理學部工學部及金屬材料研究所

第二部 法文學部

第三條 東北帝國大學附屬圖書館ニ醫科分館ヲ置キ醫學部所屬ノ圖書ヲ處理ス

第四條 醫科分館ニ主任ヲ置キ醫學部勤務ノ教授又ハ助教授ヨリ總長之ヲ命ス

第五條 分館主任ハ總長監督ノ下ニ於テ分館ノ事務ヲ處理ス

第六條 分館主任ハ主管事項中重要ト認ムルモノハ附屬圖書館長ト合議スルモノトス



附屬圖書館閱覽細則

- 第一條 本館吏員及特ニ規定セル者ノ外書庫ニ入り圖書ヲ檢索シ又ハ出納スルコトヲ許サス
- 第二條 教授、助教授、講師其ノ他ノ教員ハ書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得公務上必要ナル場合ニ於テハ其ノ他ノ職員モ亦同シ
- 學生ニシテ其ノ所屬學科教員ノ檢索保證ヲ有スル者ハ書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得
- 第三條 書庫ニ入り圖書ヲ檢索シ得タルトキハ直ニ書庫ヲ出テ借覽若クハ借受ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 書庫ニ入り圖書ヲ檢索スル者ハ圖書ノ位置ヲ亂ササルハ勿論出納者ノ障礙ヲナサル様注意スヘシ
- 第五條 閱覽ヲ許可スル時間ハ時々之ヲ揭示ス
- 第六條 學術研究ノ特志者ニハ本館館長ニ於テ圖書ノ閱覽ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第七條 閱覽室ニ於テ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ借覽票ニ所定ノ事項ヲ明記シ

- テ本館吏員ニ提出シ閱覽了レハ直ニ之ヲ返納スヘシ
- 閱覽室ニ備付ケタル圖書ハ隨意閱覽者ノ使用ニ任ス
- 第八條 閱覽者ハ本細則ノ規定ヲ遵守スヘキハ勿論本館内ノ揭示事項並本館員ノ指揮ニ從フヘキモノトス
- 閱覽者ハ公德ヲ重シ總テ他ノ妨害トナルヘキ舉動ヲ慎ムヘシ
- 第九條 各學科主任教授ハ圖書ヲ借受ケ圖書室ヲ設ケ之ヲ保管スルコトヲ得但シ本館吏員時々出張シテ之ヲ調査ス
- 前項ノ圖書ハ其ノ借受冊數ヲ制限セス
- 第十條 參考用トシテ圖書ヲ借受ケ之ヲ館外ニ帶出シ得ル者ハ教授、助教授、講師其ノ他ノ職員若クハ所屬學科教員ノ借受保證ヲ有スル學生ハ特ニ總長ノ許可ヲ得タル者ニ限ル
- 前項ニ依ル借受帶出圖書ハ教授、助教授ニアリテハ一員三十冊其ノ他ノ教職員ニアリテハ一員十冊其ノ他ハ一員五冊ヲ以テ制限トス
- 前項ノ制限ヲ超エテ借受帶出セント欲スル者ハ特ニ總長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十一條 借受帶出ノ冊數制限ハ洋裝ノモノニ就テ之ヲ定メ和漢裝ノモノハ三



冊ヲ以テ一冊ニ充テ圖書等ノ幅或ハ帙ヲナスモノハ一幅或ハ一帙ヲ以テ一冊トス裝釘セサル逐次刊行書ニシテ數號ヲ以テ完冊ヲナスモノハ其ノ一完冊ヲナスマテノ若干號ヲ合セテ一冊ト見做ス

第十二條 第十條ニ依ル圖書帶出期間ハ六十日以内トス  
但シ期間内ト雖使用了レハ直チニ之ヲ返納スヘキハ勿論場合ニヨリテハ本館ヨリ之カ返納ヲ要求スルコトアルヘシ

第十三條 諸官廳學校等ヨリ圖書ノ借受ヲ照會スルトキハ差支ナキモノニ限リ之ヲ貸付ス

第十四條 圖書ヲ借受帶出セントスルモノハ左ノ手續ヲナスヘシ  
各學科圖書室用ノ場合ニハ所定ノ事項ヲ學科圖書室用圖書借受簿ニ記入シ且ツ之ニ捺印スヘシ  
參考用ノ場合ニハ所定ノ事項ヲ參考用圖書帶出票ニ記入シ且ツ之ニ捺印シテ本館員ニ提出スヘシ

第十三條ニヨル場合ニハ所要ノ事項並期間ヲ記入シタル證書ヲ本館ニ提出スヘシ

第十五條 第十條ニヨリ借受帶出シタル圖書ハ毎年七月一日ヨリ同月十五日ノ間ニ於テ必ス返納スヘシ

第十六條 停學ノ處分ヲ受テ又ハ休學ノ許可ヲ得タル學生ハ特別ノ場合ノ外圖書ヲ閱覽又ハ借受帶出スルコトヲ得ス既ニ借受帶出シタル圖書ハ直ニ之ヲ返納スヘシ

第十七條 本館所藏ノ圖書中閱覽ヲ禁シ又ハ借受帶出ヲ禁スル物アルヘシ但シ總長ノ特許ヲ得タル者ニ對シテハ此ノ禁ヲ解ク

第十八條 貴重圖書ノ閱覽ハ貴重圖書閱覽席ニ於テスヘシ

第十九條 閱覽中又ハ借受帶出中ニ於テ圖書ヲ紛失シタル者ハ同一ノ圖書ヲ以テ辨償スヘシ但シ時宜ニヨリ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第二十條 閱覽中又ハ借受帶出中ニ於テ圖書ヲ毀損或ハ汚染シタルモノハ同一ノ圖書ヲ以テ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第二十一條 各學科圖書室用ノ爲借受帶出シタル圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ保管者直ニ其理由ヲ具載シタル始末書ヲ差出スヘシ其ノ情況ニヨリ



第十九條 又ハ第二十條ヲ適用スルコトアルヘシ  
 第二十二條 圖書閱覽細則ヲ犯シタル者ハ其ノ輕重ニ從ヒ相當ノ期間閱覽又ハ借受帶出ヲ禁止ス但シ職員ハ總長別ニ之ヲ處分ス  
 第二十三條 圖書ノ返納ヲ懈リ督促ヲ受テ猶返納セサルトキハ別ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ處分ス  
 第二十四條 本細則ハ選科生ニモ之ヲ適用ス

○ 附屬圖書館醫科分館規則

第一條 醫科分館ハ醫學部所屬ノ圖書ヲ處理スルモノトス  
 第二條 圖書ノ出納ハ圖書館吏員之ヲ掌ル  
 第三條 醫科分館ニ中央圖書室及閱覽室ヲ設ケ醫學一般ニ涉ル圖書及數教室共用ノ圖書ヲ陳列保管ス  
 第四條 前條以外ノ圖書ハ之ヲ教室內ニ置キ教授ヲシテ監守セシム  
 第五條 中央書庫ニ入りテ圖書ヲ檢索シ得ルモノハ教授、助教授、講師、藥局長及教授ノ委任ヲ受ケタルモノニ限ル

第六條 圖書ヲ借受ケ帶出シ得ルモノハ教授、助教授、講師及藥局長ニ限ル  
 借受冊數ハ一名十五冊(一幅又ハ二帙ヲ一冊ト見做ス)ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條 圖書ヲ借受ケ帶出セントスルトキハ所定ノ用紙ニ記入捺印スルコトヲ要ス  
 第八條 圖書貸出期間ハ三週間以内トス但末々編綴セサル新刊雜誌ハ二週間以内トス

第九條 貸出圖書ハ時宜ニ依リ期間内ト雖モ返戻セシムルコトアルヘシ

第十條 新着雜誌ハ教室備付ノモノニアリテハ十五日間其ノ他ノモノニアリテハ二ヶ月間之ヲ中央圖書室ニ陳列シ帶出ヲ許サス但中央圖書室ト重複スル教室備付ノモノハ此限ニアラス

第十一條 閱覽室ニ於テ圖書ヲ閱覽セントスル者ハ借覽票ニ所定ノ事項ヲ明記シテ館員ニ提出シ閱覽終リタル圖書ハ直ニ之ヲ返付スヘシ  
 閱覽室內ニ備付アル圖書ハ閱覽隨意トス閱覽時間ハ時々之ヲ揭示ス

第十二條 東北帝國大學職員以外ノ學術研究篤志者ニシテ圖書ノ閱覽ヲ請フモノアルトキハ分館主任ニ於テ許可ヲ與フルコトアルヘシ



閱覽手續ハ前條ヲ準用スルモノトス

第十三條 閱覽者ハ本規程ヲ遵守スヘキハ勿論館内ノ揭示事項並ニ館員ノ指揮ニ從フヘキモノトス

第十四條 諸官廳學校等ヨリ圖書借受ノ照會アルトキハ差支ナキモノニ限り分館主任之ヲ許可ス此場合ニ於テハ所要ノ事項並ニ借受期間(三週間以内)ヲ記入セシ借用證書ヲ分館ニ提出スルモノトス

第十五條 閱覽者又ハ借受者ニ於テ其圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタルトキハ同一ノ圖書ヲ以テ辨償セシム但時宜ニ依リ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシメ又ハ修繕費ヲ負擔セシムルコトアルヘシ

第十六條 第四條ニ依リ保管セル圖書ヲ紛失毀損又ハ汚染シタル場合ハ保管者ヨリ其旨ヲ詳記シタル始末書ヲ提出スルモノトス其事由ニ依リテハ前條ヲ適用スルコトアルヘシ

○ 金屬材料研究所研究生規程

第一條 本研究所ニ於テ研究ニ從事セントスル者ハ研究生トシテ之ヲ許可ス

第二條 研究生ノ研究期間ハ一箇年トス但シ更ニ研究ヲ繼續セント欲スル者ハ延期ヲ願出ツルコトヲ得

第三條 研究生ヲ分チテ甲種研究生、乙種研究生ノ二種トス

第四條 甲種研究生ハ帝國大學理學部、工學部ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者、乙種研究生ハ專門學校令ニ依ル學校ニ於テ關係學科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者トス

第五條 研究生タラントスル者ハ願書ニ履歷書ヲ添へ研究所長ニ願出ツヘシ

第六條 官廳其他公私團體ノ依託ヲ受ケ研究ニ從事セントスル者ハ第四條ニ照シ學力考査ノ上之ヲ許可ス

第七條 研究生ノ研究材料ハ之ヲ自辨セシムルモノトス

第八條 研究生疾病其他ノ事故ニ依リ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ研究所長ハ總長ノ認可ヲ經テ退所ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 研究生退所セント欲スルトキハ理由ヲ具シ其旨出願スヘシ



金屬材料研究所講習會規程

- 第一條 金屬材料ノ改善ヲ計ル爲毎年講習會ヲ開ク  
講習ヲ分チテ講義及實習トス
- 第二條 講習料ハ講義及實習ニ別チ講習日數其ノ他ヲ參酌シテ其ノ額ヲ定ム
- 第三條 開催ノ期日講習員ノ資格人員其ノ他入會手續等ハ其ノ都度官報ニ公告ス
- 第四條 講習員ニハ講習終了後出席日數其ノ他ヲ考査シテ證明書ヲ授與ス

○出版物

(前年ノ續)

理科報告

THE SCIENCE REPORTS OF THE TOHOKU IMPERIAL UNIVERSITY.

(First series)

Mathematics, Physics, Chemistry.

Contents.

Vol. II, No. 2.

May, 1922.

Some problems in the Theory of Cyclone. By Tsuruchi Hayashi.

On the Lanthanum Violet Bands and the Associated Lines. By Junzo Okubo.

On the Stepped A Transformation in Carbon Steel during a Rapid Cooling. By Kotaro Honda and Tario Kikuta.

On the Constitutional Diagram of the Iron-Carbon System based on Recent Investigations. By Kotaro Honda.

On the Effect of Longitudinal Stress on the Electrical Resistance of Carbon Steels. By Shin-iti Fukuta.  
Vol. II, No. 3. June, 1922.



- On the Magnetic Susceptibility of Six Nitrogen Oxides. By Take Soné.  
On the Nature of the Residual Charge of certain Dielectrics, Solidified in a Strong Electric Field.  
By Mitsuru Sato.  
On Elastic After-Effect and Elastic Hysteresis. By Junzo Okubo.  
On a Quantum Theory of the Thermal Conductivity in Non-metallic Crystals. By Yositosi Endo.  
Zur Theorie der geometrischen Konstruktionen. Von Tadahiko Kubota.  
On the Relation between the Equilibrium Diagram and the Hardness in Binary Alloys. By Tomimatsu Ishihara.  
Vol. 11, No. 4. September, 1922.  
On the Transformation in Bronze, Aluminium-Bronze and Brass. By Tsutomu Matsuda.  
An Investigation of Daralumin. By Seibei Konno.  
A treatment of the Differential Equation on Alternating Current of Electricity in a Paper of Mr. S. Chiba's. By Tsuruichi Hayashi.  
On an Inequality in the Triangle-Geometry. By Tsuruichi Hayashi.  
Vol. 11, No. 5. November, 1922.  
On the Equilibrium Diagram of the Copper-Zinc System. By Hiroshi Inai.

- On the Constitutional Diagram of the Iron-Carbon-Tungsten System. By Sigeaki Ozawa.  
Linear Conduction of Heat through a Series of Connected Rods. By Sukenki Sakai.  
Differential Geometry of Curves in Euclidean Plane-space. By Tsurusaburo Takasu(formerly T. Ota).  
Differential Geometry of Surfaces in Euclidean Plane-space, I. By Tsurusaburo Takasu(formerly T. Ota).  
On the Determination of the Coefficient of Normal Viscosity of Metals. By Kotaro Honda and Seibei Konno.  
Vol. 11, No. 6. December, 1922.  
A Remark on the Reflection of X Ray from the Fluorite Crystal. By Mituo Yamada.  
On the Occlusion of Hydrogen in Palladium. By Mituo Yamada.  
Some Experiments on Impacts. By Junzo Okubo.  
Further Studies on Dielectric Hysteresis and Allied Phenomena, Part II. By Hikoo Saegusa.  
On the Magnetic Hardness of Quenched Steels. By Tokujiro Matsushita.  
On the Nature of the A Transformation in Carbon Steels. By Kotaro Honda.  
Anwendung der Geometrie der Zahlen auf die bilinearen Formen. By Matsusaburo Fujiwara.  
Vol. 12, No. 1. February, 1923.  
Eine Bemerkung zur affinen Geometrie. Von Tadahiko Kubota.



- Some Investigation on the Quenching of Carbon Steels. By Tokujiro Matsushita.  
On the New Model of Ewing's Ferromagnetic Induction. By Kotaro Honda and Junzo Okubo.  
On the Free Vibration of Plastic Layers. By Junzo Okubo.  
The Absorption of Near Infra Red Radiation by Carbon Dioxide. By Junzo Okubo.  
Vol. 12, No. 2. April, 1923.  
Einige Ungleichheitsbeziehungen über Ellipien und Eiflächen. By Tadahiko Kubota.  
Differential Geometry of Curves in Euclidean Plane-Space, II. By Tsurusaburo Takasu.  
On Cylindrical Helices and Skew Circles. By Tsurusaburo Takasu.  
On Bertrand Curves. By Tsurusaburo Takasu.  
Bohr's Model of the Hydrogen Molecules and their Magnetic Susceptibility. By Kotaro Honda.  
A Study of the A and A Transformations in Carbon Steels by means of a Differential Dilatometer.  
By Seibei Konno.  
The Hardness of Metals as Affected by Temperature. By Kiyosi Ito.  
An Attempt to Separate the Isotopes of Chlorine by the Method of Fractional Absorption. By Jitsusaburo Samejima, Kazuo Aihara and Toshiaki Shirai.  
Index to the Science Reports, First Series, Vol. I-X (1911-1921). March, 1923.

THE SCIENCE REPORTS OF THE TOHOKU IMPERIAL UNIVERSITY.

(Second series)

Geology.

Contents.

Vol. 6, No. 2.

December, 1922.

On Some Tertiary Brachiopods from Japan. By I. Hayasaka.

Vol. 7, No. 1.

August, 1922.

Notes on Some Mesozoic Plants from Japan, Korea and China in the Collection of the Institute of Geology and Paleontology, Tohoku Imperial University. I. (With 4 Plates and 26 Text-Figures).  
By H. Yabe.

THE SCIENCE REPORTS OF THE TOHOKU IMPERIAL UNIVERSITY.

(Third series).

Petrology, Mineralogy, Economic geology.

Contents.



Vol. 1, No. 3.

June, 1923.

- The Heat effect on fire clays and their mixtures. By Shinjo Satoh.  
Anhydrite from the Hanoka mine. By Kaneki Kinoshita.  
Chemical study of some felspars. By Kanikatsu Seto.  
Further studies on the influence of temperature on the optic axial angle of sanidine. By Shukusuke Kozu and Masatoshi Suzuki.

○

東北數學雜誌

THE TOHOKU MATHEMATICAL JOURNAL.

Contents.

Vol. 21, Nos. 3/4.

October, 1922.

- S. Takenaka: A general view of the theory of summability.  
V. Thébault: Notes sur la géométrie du tétraèdre.  
T. Kubota: Notes on differential geometry in non-euclidean space.  
C. Jordan: On a new demonstration of Machaurin's or Euler's summation formula.  
K. Kurosu: Note on the theory of approximation of irrational numbers by rational numbers.

T. Kubota: Beweise einiger Sätze über Eiflächen.

S. Fukazawa: A mathematical game.

T. Takasu: Pentaspherical geometries in non-euclidean space, III.

A. Emch: On plane algebraic curves which are invariant under a quadratic Cremona transformation.

T. Takasu: On projective generalization of some theorems on algebraic curves and surfaces.

T. Matsumoto: On the convergencies of series of functions.

T. Hayashi: Some integral equations in the theory of diffusion of mixed gases.

Vol. 22, Nos. 1/2.

December, 1922.

- K. Oishi: On a Diophantine equation.  
K. Ogura: Sur le champ de gravitation dans l'espace vide.  
P. Ed. Strässlé: Untersuchungen über das Poissonsche Integral auf der Kugel und seine Ableitungen.  
Y. Sawayama: An extension of a theorem of Salmon.  
G. Polya: Über eine arithmetische Eigenschaft gewisser Reihentwicklungen.  
P. Sibirani: Sur de certains systemes d'équations différentielles.  
G. Szegő: Über die Mittelwerte analytischer Funktionen.  
K. Yoneyama: Axiomatic investigation on number-systems, I.



- E.D. Pepper: On multiplicative and enumerative properties of numerical functions.  
M. Shibayama: On geometrical construction by a ruler of finite length and compasses of finite aperture.  
P.O. Upadhyaya: On a sextic.  
P.O. Upadhyaya: Cyclotomic sexe-section for the prime 61.  
P.O. Upadhyaya: Second paper on tautochronous motion.  
T. Hayashi: On the integral with an appendix on its application to theory of approximation of a function.  
Vol. 22, Nos. 3/4. May, 1923.  
T. Takasu: Projective and correlative applicabilities of two surfaces.  
S. Takenaka: On a general theory of summability, II.  
R.E. Moritz: Über gewisse Infinitesimaloperationen der höheren Operationsstufen, III.  
K. Yoneyama: Axiomatic investigation on number-systems, II.  
G. Tiercy: Note sur quelques identités vectorielles et algébriques; et sur les formules de la trigonométrie sphérique.  
Nripendra Nath Sen: On liquid motion inside a rotating elliptic quadrant.  
T. Iwatsuki: Motion under a central force with infinitesimal transformations.

- Y. Okada: On a certain expansion of analytic function.  
T. Kubota: Eine Verallgemeinerung des Taylor-Cauchyschen Satzes.  
L. Hanni: Grundlagen einer allgemeinen Theorie der zeitlich veränderlichen Vektorfelder und ihrer Relativitätstheorie.  
P.O. Upadhyaya: On the maximum and minimum values of shortest distance between two screws.  
P.O. Upadhyaya: On a geometrical property of the Cassinian.  
P.O. Upadhyaya: Cyclotomic sexe-section for the primes, 37, 43, 67 and 73.  
P.O. Upadhyaya: Cyclotomic quinquisection for the primes 1621, 1721 and 1741.  
P.O. Upadhyaya: Some general formulae in symmetric functions which depend upon cyclotomic tri-section.  
T. Hayashi: The extremal chords of an oval.

○

醫學部解剖學教室研究報告

- ARBEITEN AUS DEM ANATOMISCHEN INSTITUT DER KAISERLICH-JAPANISCHEN  
UNIVERSITÄT ZU SENDAI. Heft VII. Apr. 5, 1922.  
G. Fuse, Beiträge zur mikroskopischen Anatomie des Truncus cerebri: Ein weiterer Beitrag zu dem



bislang unbekanntem resp. nicht genügend berücksichtigten Grau in der Zone zwischen der spinalen Quintiswurzel und der oberen Olive („Zona quintoolivaris superior“), insbesondere über den Seitenstrangkern des Pons bei einigen Säugern(Eichhorn, fliegender Hund, Igel, Stachelschwein, Paradoxurus, Herpestes mungo und urva, Dachs, Meles anakuma, Stenops, Lemur und Orang-Utan).

**S. Nishi**, Beiträge zur vergleichenden Anatomie der Augenmuskulatur.

○

### 醫學部解剖學紀要

#### MITTEILUNGEN ÜBER ALLGEMEINE PATHOLOGIE UND PATHOLOGISCHE

ANATOMIE, Bd. 2, Heft 1, Aug. 18, 1923.

**Marui**, Prof. Dr. Kiyoyasu, u. **Arai**, Doz. Dr. Shohei. Histopathologische Untersuchung bei der experimentellen Gehirnverletzung; biologische Bedeutung der sog. „Nukleoproteid-artigen Granula“(Marui); zugleich ein neuer Beitrag zum Begriff der sog. Neuronophagie.

**Takenomata**, Dr. Nobutaro. Experimenteller Beitrag zur Pathogenese der Streptokokkenephritis.

**Arai**, Doz. Dr. Shohei. über die Genese und Entstehung der Nissl-Schollen in den Nervenzellen; Demonstration der sog. Nukleoproteid-artigen Granula (Marui) in den Embryonalzellen; zugleich ein Beitrag zur biologischen Bedeutung der Gliazellen und Körnchenzellen im embryonalen Zentralnerven-

system.

**Kuge**, Doz. Dr. Kadzuma. über die Knochenkörper in den pseudomucinösen Ovarialkystomen.

**Ukai**, Dr. Satoru. Beiträge zur Kenntnis der  $\pi$  Granula in den peripherischen Nervenfasern.

**Ukai**, Assist. Dr. Satoru. über echte Nanosomie.

○

### 醫學部解剖學紀要

#### THE TOHOKU JOURNAL OF EXPERIMENTAL MEDICINE.

Vol. III, Nos. 3 & 4, August 30, 1922.

**Ohara T.** On the Relation between the Ligature of the Ductus Thoracicus and the Tolerance of Carbohydrate.

**Aoki K.** u. **Kondo S.** über einige Fleckfieberproteinstämme, welche von uns gefunden worden sind, zugleich über die agglutinatorische Beziehung der Fleckfieberproteusbazillen zu den anderen sogenannten gewöhnlichen Proteusbazillen, welche von uns in 9 Unterarten eingeteilt worden sind.

**Goto K.** On the Chlorine, Sulphur and Phosphorus Content of the Blood and Tissues of Starved Animals.

**Oka T.** Experimentells Studium der inneren Sekretion des Pankreas. II. Mitteilung. über den



Kohlhydratstoffwechsel bei den Hunden mit der Eck'schen Fistel.

**Morita S.** The Blood Sugar Content of the Rabbit after the Bilateral Ligation of the Renal Vessels.

**Aoki K. u. Hashimoto K.** Über das agglutinatorische Verhalten von Proteusbazillen gegen Hitze und ihre Einteilung in verschiedene Unterarten.

**Morita S.** Sur le Sucre virtuel du Sang après la Ligature des Vaisseaux Rénales Doubles.

**Nakazawa F.** The Influence of Phlorhizin on the Intestinal Absorption.

**Yamakami K.** Drowning Hemoglobinuria.

Vol. III. Nos. 5 & 6. December 30, 1922.

**Yamakita M.** The Effect of Anticoagulants on the Observed Values of the Oxygen Capacity of Blood Estimated by the Ferricyanide Method.

**Yamakawa S. u. Kashiwabara M.** Beitrag zu den Beziehungen der Lipoidämie zur Entwicklung des Xanthoms.

**Konno T. u. Sakai K.** Beobachtung über die agglutinatorische Veränderlichkeit der Mäuse typhusbazillen von einem Typus zum anderen.

**Sakai K.** Studien über die Beziehung zwischen der Haupt- und Mitagglutination. X. Mitteilung. Über

das agglutinatorische Verhalten von Paratyphus B-Bazillen und Mäuse typhusbazillen den Sera aus den Mäuse typhusbazillen der Aertryckform und Gärtner bazillen gegenüber.

**Yamakami K.** Asphyktische Hyperchlorämie.

**Morita S.** Die Hyperglykämie und Glykosurie durch Ammoniumchlorid und Magnesiumsulfat an der Katze.

**Yamakita M.** The Gaseous Metabolism and Blood Flow of the Brain. I. Under Narcosis and Hypnosis.

**Yamakita M.** The Gaseous Metabolism and Blood Flow of the Brain II. The Effect of Excited Activity of the Brain on its Oxygen Consumption and Blood Flow, and the Action of Drugs on the Cerebral Vessels.

**Yamakita M.** The Gaseous Metabolism and Blood Flow of the Brain. III. The Effect of Hot and Cold Applications to the Head on the Gaseous Exchange of the Brain.

**Yamakita M.** The Gaseous Metabolism and Blood Flow of the Brain. IV. The Relation of the Blood Flow to the Gaseous Metabolism in the Brain.

**Yamakita M.** Internal Secretion and Gaseous Exchange of Blood.

**Yamakita M. and Kato T.** Clinical and Experimental Anoxemias and the Effect of Oxygen Administration.



- Tsukasaki R.** On the Alcohol Precipitate of Serum as Antigen.  
Vol. IV. No. 1. April 30, 1923.
- Takami T.** Beobachtungen über die Hämolyse von Pneumokokken.
- Ogasawara Y.** Über Stämme von Dysenteriebazillen, welche in Shiga serum sehr stark agglutinieren können.
- Aoki K.** Eine weitere agglutinatorische Untersuchung von Paratyphenteriebazillen.
- Yokota M.** über die Wirkung der Arzneimittel auf die Blutdruck, besonders den venösen.
- Yokota M.** über die Wirkung des Akonitins auf die Darmbewegung.
- Katsura S.** über die Resorption der Typhus und Paratyphusbazillen (Ein Beitrag zur Pathogenese des Typhus abdominalis).
- Yamakami K.** Sur la Valeur Diagnostique de la Détermination de Chlorure du Sain pour la Mort par Submersion.
- Watanabe M.** On the Pharmacological Efficacy of Digitalis Leaf.  
Vol. IV. No. 2. June 30, 1923.
- Watanabe M.** The Cardio-tonic and Diuretic Action of *Kobu* (Laminaria Japonica, Aresh).
- Kodama S.** Effect of Stimulation of the Sensory Nerves upon the Rate of Liberation of Epinephrine

from the Suprarenal Glands.

- Odaira T.** The Change in the Reserve Alkali and Oxygen Dissociation Curve of Blood in Clinical and Experimental Anaemias.
- Sato K.** Studien über die Glykogenbildung im Tierkörper nach Zuckerinfusion. I. Mitteilung. Ergänzung zur Bierry-Yamakawaschen Glykogenbestimmungsmethode.  
Vol. IV. No. 3. July 30, 1923.
- Yamakami K.** Comparative Studies of the Methods of Determining Blood Alcohol with Reference to a Modification of Nicloux's Method.
- Oka T.** Experimentelles Studium der inneren Sekretion des Pankreas. III. Mitteilung. Besitzt der Pankreasextrakt eine spezifische Gefässwirkung?
- Kondo S.** über das Vorkommen und die pathogene Bedeutung von Meningokokken.
- Sato K.** Studien über die Glykogenbildung im Tierkörper nach Zuckerinfusion. II. Mitteilung. Zur Frage der Glykogenbildung im Tierkörper bei der intravenösen Traubenzuckerinfusion.
- Sato K.** Studien über die Glykogenbildung im Tierkörper nach Zuckerinfusion. III. Mitteilung. Glykogenbildung im Tierkörper nach Zuckerinfusion unter dem Einfluss von einigen glykosurisch wirkenden Giften.



Hayashi Y. Beeinflussung des normalen intrakularen Druckes durch Eserin.

Nakazawa F. Über die Wirkung des Kamphers auf den Kreislauf.

○ 工学部

THE TECHNOLOGY REPORTS OF THE TOHOKU IMPERIAL UNIVERSITY.

Contents.

Vol. 3, No. 1.

November, 1922.

Laws of Failure of Solid Bodies due to Stress. By Chido Sunatani-Kogakushi.

Notes on the Draught Tube of a Water Turbine. By Otogoro Miyagi-Kogakuhakushi.

Vol. 3, No. 2.

March, 1923.

On the Behaviour of an Aluminium Cell Lightning Arrester under Radio Frequency E.M.F. By Hide-

tsugu Yagi-Kogakuhakushi and Jusuke Okochi-Kogakushi.

On the Mercury arc as the Audio Frequency Oscillator. By Yasushi Watanabe-Kogakushi.

Vol. 3, No. 3.

May, 1923.

Combined T Type Artificial Electric Line. By Heichi Nakiyama-Kogakushi and Yoji Shoji.

A General Consideration of the T and Type Artificial Electric Lines in Connection with a Proposed

Compensated Line. By Heichi Nakiyama-Kogakushi and Kinjiro Okabe-Kogakushi.

Stress induced by Increasing Load specially in a Cylinder Wall subjected to Internal Explosion. By

Tetsuji Sugihara-Kogakushi.

Vol. 3, No. 4.

June, 1923.

Manufacture of Plastic Products from Proteid of Soy Bean. By Sadakichi Satow-Kogakuhakushi.

○

○學内出版物以外ノ研究報告(前年ノ續)

理學部

MATSUSABURO FUJIWARA.

Anwendung der Geometrie der Zahlen auf die indenniten ternären Quadratischen Formen.

Abhandlungen aus dem Mathematischen Seminars der Hamburgische Universität, Band 2, 1923.

RIKO MAZIMA.

1. Ueber den Hauptbestandteil des Japanlacks VII. Der Urushioinononmethyldäther und der Mechanismus

der Oxydation des Urushiois.(Berichte d. deutsch. Chem. Gesellschaft, Bd. 53, 1907(1902).

1. Ueber den Schmelzpunkt einiger Tetaromatischer Ketone. (Berichte d. deutsch. Chem. Gesellschaft,

Bd. 55, 215(1922).



1. Ueber die Reaktion zwischen Acetylen und Aniliss bei höherer Temperatur. (Berichte d. deutsch. Chem. Gesellschaft, Bd. 55, 3854(1922)).
1. Synthetische Versuche in der Indolgruppe, I. Eine neue Synthese des racem. Tryptophans (Berichte d. deutsch. Chem. Gesellschaft, Bd. 55, 3859(1922)).
1. Synthetische Versuche in der Indolgruppe, II. Ueber die Einfluss von Lösungsmitteln auf die Grignardsche Reaktion. (Berichte d. deutsch. Chem. Gesellschaft, Bd. 55, 3865(1922)).

副 手 和 直 綱

- 一、シアン化物ノ定量及ピ沃素定量指示薬トシタベンセンノ使用ニ就テ(日本化学會誌第四十二帙第六號)
- 一、過マンガネ酸及亞砒酸ノ定量ニ就テ(同第八號)
- 一、澱粉溶液ノ保存ニ就テ(同第十一號)
- 一、容量分析ニアマルガムノ應用(第四報)カドミウムアママルガムノ使用ニ就テ(同第四十三帙第四號)
- 一、容量分析ニアマルガムノ應用(第六報)鐵、モリブデン、ウラン、プタゲン及チタンノ電壓測定(同第六號)
- 一、堯弗化水素酸ノ電導測定ニ就テ(同第六號)

講 師 箱 守 新 一 郎

- 一、接觸分析研究(第一報)鹽素酸ノ定量(日本化学會誌第四十三帙第一號)

- 一、酒石酸及グリセリンノ存在ニ於ケルクロム、鐵及アルミニウムノ反應ニ就テ(同第七號)

- 一、容量分析ニアマルガムノ應用(第七報)燐酸ノ定量(同第九號)

- 一、酒石酸ノ存在ニ於ケル諸金屬ノ反應ニ就テ(同第四十四帙第七號)

- 一、白金トイソゲウムトノ定量的分離(日本化学會誌第四十四帙第五號)

青 山 新 一

- 一、低溫度ニ於ケル各種木炭ノ空氣吸着ニ就テ(日本化学會誌第四十三帙第六號)

林 嘉 吉

- 一、アトモリシスノ理論ニ就テ(日本化学會誌第四十四帙第七號)
- 教 授 鮫 島 實 三 郎

副 手 深 谷 廣 一

- 一、アセチレン瓦斯ノ密度(日本化学會誌第四十四帙第七號)

中 岡 環

- 一、容量分析ニアマルガムノ應用(第一報)、モリブデン、チタン及鐵ノ定量(日本化学會誌第四十二帙第七號)
- 一、同(第二報)、プタゲン及ウランノ定量(同第九號)

菊 池 末 太 郎



- 一、容量分析ニアマルガムノ應用(第三報)、沃素酸、臭素酸及塩素酸ノ定量(日本化學會誌第四十三帙第二號)
- 一、同(第五報)、鐵、チタン、ウラン及メチレンブルーノ定量(同第六號)
- 一、硫化錫ノ吸着作用ガ磷酸定量ニ及ボス影響(同第四號)

石丸三郎

- 一、蓆酸標準液ノ保存法(附、ビュレットノ讀ミニ就テ)(日本化學會誌第四十三帙第十號)

ICHIRO HAYASAKA.

On the occurrence of Richtofenia in Japan (American Journal of Science, Vol. IV, Dec. 1922.)

教授 理學博士 神津 傲祐

Polymorphismニ就イテ(東京地質學雜誌第叁拾卷第百五拾八號)

教授 理學博士 理學士 神津 傲祐

助手 理學士 佐伯 祥一郎

理學士 鳥山 武雄

加熱ニヨル好地石ノ構造上ノ變化(東京地質學雜誌第叁拾卷第百五拾九號)

MANJIRO WATANABE.

- 1. On the babingtonite from the contact metamorphic deposits of the Yakuki mine, Japan. (American Journal of Science, Vol. IV, August, 1922)

- 2. Geological distribution of the important ore deposits of Japan. (Economic Geology, Vol. XVIII, No. 2, March, 1923)

- 3. Diffusionsgeschwindigkeit in Gallerten bei gleichzeitigem chemischen Umsatz. (Kolloid Zeitschrift, Band XXXII, Heft 5, 1923)

- 4. Kapillarität und Diffusion in der Geologie. (Kolloid Zeitschrift, Band XXXII, Heft 3, 1923)

- 5. Kapillar-Versuche mit Kaolin. (Zeitschrift für die Keramischen, Glas- und verwandten Industrien, Jahrgang 56 No. 6, 1923) von R. Ed. Liesegang und Manjiro Watanabé.

- 6. Diffusion-Versuche mit Kaolin. (Zeitschrift für die Keramischen, Glas- und verwandten Industrie, Jahrgang 56, No. 7, 1923) von Manjiro Watanabé und R. Ed. Liesegang.

教授 烟井新喜司

- 一、「ペリケータ、メガスコリテオイデス」ノ記載ニ對スルツイルヘルム、ミカエリセン教授ノ質疑ニ答ヘ合セテ同種ニ就キ體長ト環節數及ヒ剛毛數ノ關係ヲ記述ス(大正十一年三月發行、動物學雜誌第三十四卷、第四百一號)

SINKISHI HATAI.

- Contributions to the Physiology of Earthworms. I. The effect of heat on rhythmic contractions in several species of Oligochaeta. (Japanese Journal of Zoology, Vol. 1, No. 1, Dec. 1922)



SANJI HOZAWA.

On a New Genus of Calcareous Sponge. (Annulations Zoologicae Japonenses, Vol. X, Article 18, July 1933)

一、帆立介ノ醜ノ構造及其系統學的意義(豫報)(大正十一年三月發行、動物學雜誌第三十四卷、第四百一號)

工學部

教授 工學士 拔山平一  
助教 手 庄司養二

一、パイプアライ型無誘導抵抗ノ設計ニ就テ(邦文)(大正十一年八月電氣學會雜誌第四〇九號)  
助教 授 工學士 渡邊 寧

一、可聽振動發生器トシテノ水銀弧光ニ就テ(邦文)(大正十一年九月電氣學會雜誌第四一〇號)  
助教 授 工學士 渡邊 寧

一、タンカト整流器ノ弧光ノ特性曲線ニ就テ(邦文)(大正十一年十月電氣學會雜誌第四一一號)  
教授 工學士 拔山平一  
講師 工學士 岡部金治郎

一、T<sub>K</sub>型擬似送電線ニ關スル一般の考察並ニ補償π型擬似送電線ニ就テ(邦文)(大正十一年十二月電氣學會雜誌第四一三號)

助教 授 工學士 渡邊 寧  
特別高周波電流ノ波形構圖ニ就テ(邦文)(大正十二年一月電氣學會雜誌第四一四號)

助教 授 工學士 渡邊 寧  
一、周波數變換器ニ就テ(邦文)(大正十二年二月電氣學會雜誌第四一五號)

教授 工學士 拔山平一  
助教 手 庄司養二

一、混合T<sub>K</sub>型擬似送電線ニ就テノ理論ノ補遺(邦文)(大正十二年二月電氣學會雜誌第四一五號)  
教授 工學博士 工學士 八木秀次

一、避雷器ノ或ル考ヘ方(邦文)(大正十二年四月電氣學會雜誌第四一七號)  
助教 授 工學士 渡邊 寧

一、タンカト整流器ノ發生スル振動ニ就テ(邦文)(大正十二年四月電氣學會雜誌第四一七號)  
教授 工學士 拔山平一  
助教 手 庄司養二

一、鐵ノコンプレックス、パーミアビリチーノ測定ニ就テ(邦文)(大正十二年六月電氣學會雜誌第四一九號)



○各學部教授會審查學位請求論文題目

- 廣島縣平民 從六位掛 谷 宗 一
- 線狀積分方程式ノ一系ニ就テ(英文)(大正五年六月十九日理科大學教授會審查)
- 山形縣平民 小倉 命之助
- 保存力場ニ於ケル徑路(英文)(大正五年六月十九日理科大學教授會審查)
- 東京府平民 寺 澤 寬 一
- 一方へ無限ニ擴カレル固體ノ與ヘラレタル境界條件ノ下ニ於ケル彈性的平衡ノ論並ニ其ノ應用(英文)(大正六年十月三日理科大學教授會審查)
- 神奈川縣平民 米 山 國 藏
- 連續的點集合論(英文)(大正七年十二月十三日理科大學教授會審查)
- 石川縣平民 敷 波 重治郎
- 鳥類脾藏原基ノ發生ニ就テ(獨文)(大正八年十月十一日醫學部教授會審查)
- 愛知縣平民 野 村 博
- 生薑ノ辛味成分(英文)(大正八年三月十九日理科大學教授會審查)
- 三重縣士族 小 島 鐵 藏
- 無限級數及無限積分ノ理論へノ貢獻(英文)(大正八年七月二十一日理學部教授會審查)

- 佐賀縣士族 曾 福 武
- 水素及二三ノ氣體ノ磁氣係數ニ就テ(英文)(大正八年七月五日理學部教授會審查)
- 栃木縣平民 渡 邊 孫 一 郎
- 「べるわい、ぼつそん」及「ちえびし」ニ就テノ擴張ト非獨立的試驗ノ確定係數ニ就テ(英文)(大正八年七月五日理學部教授會審查)
- 德島縣平民 佐 藤 定 吉
- 大豆蛋白ノ研究及其工業的應用(英文)(大正九年五月十八日工學部教授會審查)
- 東京府平民 和 田 德 次 郎
- 内耳蝸牛殼管ノ血管帶ニ關スル胎生解剖學的研究(獨文)
- (大正九年六月十二日醫學部教授會審查)
- 岡山縣平民 石 原 寅 次 郎
- 炭素五%ニ至ル諸種ノ鐵合金ニ於ケル $A_0 A_1 A_2 A_3$ 變態點ノ磁氣の測定ニ就テ
- 鐵及鋼ニ於ケル $A_3$ 及 $A_4$ 變態ノ磁氣の研究ニ就テ(英文)(大正九年五月二十六日理學部教授會審查)
- 山梨縣平民 三 枝 彦 雄
- 結晶電媒體ニ於ケル履歷現象ト是ニ關連セル二三ノ現象ニ就テ(和文)
- (大正九年五月二十六日理學部教授會審查)



○各學部教授會審查學位請求論文題目

- 一、二三ノ「バンド、スベクトル」ノ構造ニ就テ(英文)(大正九年五月二十六日理學部教授會審查)
- 福岡縣平民 大里俊吾
- 一、淋巴ニ關スル研究補遺(獨文)(大正九年五月二十九日醫學部教授會審查)
- 高知縣平民 田所芳秋
- 一、岩石及煉瓦ノ熱傳導率比熱密度膨脹係數ノ測定(英文)(大正九年五月十日理學部教授會審查)
- 宮城縣平民 早坂一郎
- 一、越後國青海石炭二疊紀石灰岩化石動物群(英文)(大正九年五月十日理學部教授會審查)
- 福島縣士族 大原八郎
- 一、中毒性甲狀腺腫ノ血液及ヒ循環系統ニ關スル研究並ニ此等ニ及ホス手術的影響ニ就テ(英文並ニ邦文)(大正九年十月八日醫學部教授會審查)
- 大分縣平民 徳光美福
- 一、副腎皮質ノ一新機能ニ就テ(獨文)(大正十年五月十三日醫學部教授會審查)
- 奈良縣士族 中川小四郎
- 一、酒精ノ靜脈内注入麻醉ニ關スル實驗的研究(獨文)(大正十年五月十三日醫學部教授會審查)
- 石川縣平民 宗立順吉

- 一、望扶斯菌毒素ノ生理學的作用ニ關スル實驗的研究(獨文)(大正十年五月十三日醫學部教授會審查)
- 愛知縣平民 小酒井光次
- 一、滲透壓ノ研究(英文)(大正十年五月十三日醫學部教授會審查)
- 群馬縣平民 下平軍平
- 一、細菌毒素ニ因ル聽器變化ノ實驗的研究補遺(獨文)(大正十年六月二十五日醫學部教授會審查)
- 三重縣平民 山上熊郎
- 一、生前並ニ死後ニ於ケル血液ノ滲透濃度ニ就テ(英文)(大正十年十月八日醫學部教授會審查)
- 廣島縣平民 森元良雄
- 一、酵素ノ本質及ヒ生因ニ就テ(邦文)(大正十年十月八日醫學部教授會審查)
- 兵庫縣平民 松下徳次郎
- 一、健洋鋼ノ物理冶金的研究(英文)(大正十年十二月二十六日理學部教授會審查)
- 愛知縣士族 松田致
- 一、青銅アルミニウム青銅及真鍮ノ變態ニ就キテ(大正十一年三月十日理學部教授會審查)
- 三重縣平民 宮崎彪之助
- 一、生物ノ新ラシキ見方(邦文)(大正十一年三月二十五日醫學部教授會審查)
- 東京府士族 高田蒔

○各學部教授會審查學位請求論文題目



○各學部教授會審查學位請求論文題目

二八八

- 一、胃液ノ研究(英文)(大正十一年四月二十二日醫學部教授會審查)
  - 北海道平民 後藤基幸
- 一、饑餓動物ノ血液並ニ組織中ニ在ル鹽素硫黃及ヒ糖ノ量(英文)(大正十一年四月二十二日醫學部教授會審查)
  - 福井縣平民 藤井猪十郎
- 一、家兔ニ於ケル繩縛性過血糖、糖尿ニ就テ(獨文)(大正十一年五月二十七日醫學部教授會審查)
  - 富山縣平民 砂谷智導
- 一、内力ニ因ル固體ノ破損ノ法則(英文)(大正十一年九月八日工學部教授會審查)
  - 東京府平民 佐藤進三
- 一、本邦産主要ノ耐火粘土及ヒ其ノ混合物ノ熱的影響(英文)(大正十一年十一月一日理學部教授會審查)
  - 宮城縣平民 佐藤幸三
- 一、靜脉内糖注入後動物體內ニ於ケル糖原生成ニ就テ(獨文)(大正十二年一月二十七日醫學部教授會審查)
  - 奈良縣平民 森田幸門
- 一、腎臟血管結紮後ノ家兔血糖量(英文)(大正十二年二月二十四日醫學部教授會審查)
  - 三重縣平民 山北又十郎
- 一、腦髓ノ瓦斯交換ニ關スル研究(英文)(大正十二年二月二十四日醫學部教授會審查)
  - 兵庫縣平民 佐野實

- 一、兔腦及猫腦ノ「せれぶろしんど」(英文)(大正十二年二月二十四日醫學部教授會審查)
  - 愛媛縣平民 小玉龍藏
- 一、眼組織ニ關スル過敏性的研究(英文)(大正十二年三月十日醫學部教授會審查)
  - 埼玉縣平民 横田道之助
- 一、靜脉血壓ニ關スル研究(獨文)(大正十二年三月十日醫學部教授會審查)
  - 新潟縣平民 渡邊正雄
- 一、ぢきたりす葉ノ効力ニ關スル研究(英文)(大正十二年三月十日醫學部教授會審查)
  - 高知縣士族 岡元俊
- 一、組織細胞死後ノ自家融解ニ就テ(獨文)(大正十二年五月十二日醫學部教授會審查)
  - 鳥取縣士族 林雄造
- 一、虹彩脫出ヲ伴ヘル穿孔性角膜缺損ノ治療機轉ニ關スル實驗的研究(獨文)
  - (大正十二年五月十二日醫學部教授會審查)
    - 東京府平民 小峰茂之
- 一、神經系統ノ代謝機轉(金線蛙「らなりにくろきくらた」)中樞神經系統ノ比較重量ノ規則正シキ季節的變化及ヒ其ノ雌雄ニ於ケル差異ニ就テ(英文)(大正十二年六月二十三日醫學部教授會審查)
  - 愛媛縣平民 今井半次郎

○各學部教授會審查學位請求論文題目

二八九



一、石狩炭田ニ於ケル幌内層ト夾炭層トノ關係ニ就キテ(邦文)(大正十二年六月二十九日理學部教授會審查)

○獎學金

荒井泰治獎學資金

荒井泰治ヨリ大正元年九月金壹萬圓ヲ寄附セシモノニシテ之ヲ數回ニ分チテ納付シ文學博士狩野亨吉藏書購入ノ費ニ充ツ

鹽原又策獎學費

鹽原又策ヨリ大正四年五月金壹萬五千圓ヲ大正五年六月金五千圓ヲ大正五年十二月金壹萬圓ヲ大正七年三月金參千圓ヲ寄附セシモノニシテ臨時理化學研究ノ費ニ充ツ

住友吉左衛門獎學費

男爵住友吉左衛門ヨリ大正五年一月金貳萬壹千圓大正八年一月金參拾萬圓ヲ寄附セシモノニシテ臨時理化學研究費及鐵鋼研究所創立事業費ニ充ツ

矢部長克獎學費

大正四年四月教授理學博士矢部長克ヨリ每年年額金百貳拾圓ヲ寄附セルモノニシテ之ヲ理學部學生ノ獎學費ニ充ツ

植松京獎學費

大正八年二月東京市植松京ヨリ金壹千圓ヲ寄附セシモノニシテ鐵鋼研究所研究ノ費ニ充ツ

前田榮治郎獎學費

大正八年四月大阪市前田榮治郎ヨリ金五千圓ヲ寄附セシモノニシテ醫學部病理學病理解剖學教室研究費ニ充ツ

福澤桃介獎學費

大正九年十二月東京市福澤桃介ヨリ金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ附屬鐵鋼研究所研究ノ費ニ充ツ

ふるうゐつつ文庫

大正十年一月仙臺市伊澤平左衛門ヨリ數學ニ關スル洋書壹千四百九拾七冊ヲ寄附セルモノニシテコノ價格參千五拾四圓ナリ

伊藤乙次郎獎學費

大正十年四月株式會社神戸製鋼所取締役社長伊藤乙次郎ヨリ金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ金屬材料研究所研究ノ費ニ充ツ

金屬材料研究所

大正十年二月大阪市男爵住友吉左衛門ヨリ金屬材料研究所建物ヲ寄附セルモノニシテ設



備費及事業費ヲ含ミ金參拾萬八千四百貳拾六圓ナリ

神戸製鋼所獎學費

大正十年五月神戸市株式會社神戸製鋼所ヨリ金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ金屬材料研究所研究費ニ充ツ

寒川恒貞獎學費

大正十年十二月東京市寒川恒貞ヨリ金貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ金屬材料研究所研究ノ費ニ充ツ

三菱造船株式會社外三社獎學費

大正十一年三月三菱造船株式會社三菱製鐵株式會社三菱礦業株式會社三菱内燃株式會社ヨリ金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ金屬材料研究所研究ノ費ニ充ツ

○東北帝國大學學友會會則

第一條 本會ハ東北帝國大學學友會ト稱ス

第二條 本會ハ東北帝國大學職員及學生ノ團結ヲ圖リ且高尙ナル趣味品性ノ養成ニ資シ併セテ體育ノ増進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會々員ハ自修會長、學友會、工明會、強立會ノ在學會員及大學關係者ヲ以テ組織ス

ス

第四條 本會ニ左ノ各部ヲ置ク

- 文 藝 部
- 陸上運動部
- 野 球 部
- 庭 球 部
- 柔 道 部
- 劍 道 部
- 弓 道 部
- 乘 馬 部
- 音 樂 部
- 水 泳 部
- 山 岳 部
- 漕 艇 部

以上各部ノ外陸上運動部ニ職員運動部ヲ附置ス

第五條 野球部、庭球部、柔道部、劍道部、弓道部、乘馬部、音樂部、水泳部、山岳部ニハ各別ニ部員ヲ



置クコトヲ得

部員ヲ置ク部ニハ別ニ規則ヲ定メ會長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

(イ) 會長 一名 本學總長ヲ推ス

(ロ) 副會長 四名 各學部部長ヲ推ス

(ハ) 部長 十二名 本會各部ニ一名宛トシ本學職員ノ内ヨリ會長之ヲ囑託ス  
但シ其任期ハ一年トス

(ニ) 理事 十四名

職員側理事二名會長之ヲ囑託ス

學生側理事十二名各學部會委員ノ内ヨリ各三名ヲ互選ス其任期ハ一年トス

各學部會ヨリ選出セル三名ノ理事中一名ヲ常務理事トシ互選ニヨリテ之ヲ定ム

職員側理事中一名ハ庶務一名ハ會計ノ事務ヲ掌理シ學生側理事ハ各學部會委員ノ

意思ヲ代表シ本會ノ事務ヲ掌理シ各學部會ノ總會ニ於テ會員ニ諸般ノ報告ヲ爲ス

(ホ) 常任委員四十名野球部、庭球部、柔道部、劍道部、弓道部、乘馬部、音樂部、水泳部、山岳部、滑

艇部ニ各四名トシ各學部會ヨリ一名宛ヲ選出ス其ノ任期ハ一年トス常任委員ハ

各其ノ部ノ事務ヲ掌理ス

(ト)(ヘ)

臨時委員 必要ニ應ジ會員ノ内ヨリ若干名ヲ囑託スルコトヲ得

庶務委員 會計委員

主任委員各一名、庶務委員七名、會計委員六名、本學事務職員ノ内ヨリ會長之ヲ囑託

シ本會ノ事務ヲ佐ク

第七條 會費ハ會員一名ニツキ一年貳圓五拾錢トシ各學部會ニ於テ之ヲ徵集ス但シ事業

ノ如何ニヨリテハ臨時寄附金ヲ募集スルコトヲ得

特別會計ヲ有スル部ニ於テハ其ノ部ニ於テ部員ヨリ金若干ノ部費ヲ徵集スルコトヲ得

第八條 本會ノ收入支出ハ總テ豫算ニ依ル

豫算ハ毎年四月理事會ニ於テ作成シ五月上旬役員總會ノ決議ヲ經ヘシ

第九條 役員總會ニ出席スル者ハ左ノ如シ

會長、副會長、部長、理事、常任委員、庶務主任委員、會計主任委員

第十條 野球部、庭球部、柔道部、劍道部、弓道部、乘馬部、音樂部、水泳部、山岳部、滑艇部ニ於テハ特

別會計ヲ設クルコトヲ得

第十一條 會計委員ハ毎年度ノ終ニ於テ收支決算表ヲ作成シ五月上旬ノ役員總會ニ提出

シ其承認ヲ受クヘシ

第十二條 本會ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル



第十三條 本會々則ハ役員總會ノ決議ニヨリ之ヲ變更スルコトヲ得

○理學部自修會會則

第一條 本會ハ東北帝國大學理學部自修會ト稱ス

第二條 本會ハ理學部學生生徒ノ一致團結ヲ圖リ交誼ヲ厚フシ且心身ヲ練磨スルヲ目的トス

第三條 本會ノ事業ハ總會ノ決議ニ基キ之ヲ行フモノトス但シ臨時ノ事項ハ役員會ノ決議ニ從ヒ處理スルコトアルヘシ

第四條 本會々員ヲ分チテ左ノ三種トス

一、會員 本學部學生生徒及ヒ本會ニ關係アル者ニシテ入會ヲ希望スル者

二、贊助會員 東北帝國大學總長、理學部教授、同助教授、講師及ヒ事務官

三、名譽會員 本會ニ於テ特ニ推薦シタルモノ

學生生徒タル本會員ハ卒業或ハ修業ノ際(或ハ卒業又ハ修業後一箇年以内ニ)一時金五圓ヲ納メテ終身會員トナルコトヲ得又學生生徒以外ノ會員ニシテ本學ヲ去ル場合一時金五圓ヲ納ムルトキハ終身會員タルコトヲ得

第五條 本會ノ役員ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、總裁一名 東北帝國大學總長ヲ推ス

總裁ハ本會ヲ統治ス

一、會長一名 理學部長ヲ推ス

一、副會長一名 委員會ニ於テ教授中ヨリ推薦シ會長之ヲ定ム副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ會務ヲ代理ス

一、委員長一名 毎年委員中ヨリ互選ス

委員長ハ會長ニ屬シ本會ノ庶務ヲ掌理ス

一、副委員長一名 委員中ヨリ互選ス

副委員長ハ委員長ヲ補佐シ委員長事故アル時ハ副委員長之ヲ代理ス

一、委員 大學院及各教室各級ヨリ各一名宛テ互選ス委員ハ院又ハ各級ヲ代表シ會長指定ノ會務ヲ分掌ス

一、會計主任 本學會計課長ニ委嘱ス會計主任ハ會長ニ屬シ經費ノ出納及其他ノ財務ヲ掌理ス

前各項ノ外庶務取扱ノ爲メ會長ハ事務員ヲ本學職員ニ委嘱スルコトヲ得

第六條 本會役員ノ任期ハ一箇年トシ其更任期ハ毎年三月トス

第七條 總會ハ春秋二回之ヲ召集ス但シ委員會ノ決議ニ依リ會長ハ臨時總會ヲ召集スル



コトアルヘシ

第八條 總會ニ於テハ諸般ノ報告ヲ爲シ本會ノ事業ヲ議定ス議事ハ出席會員ノ過半數ノ賛成ニ依リ決定スルモノトス

第九條 總會ニ提出スヘキ議案ハ豫メ委員ニ申告スルモノトス

第十條 會費ハ會員ハ年額金五圓賛助會員ハ高等官會員及同待遇者ハ年俸ノ千分ノ三(但シ四圓ニ滿タサルモノハ四圓トス)判任官及同待遇ハ千分ノ三トス一月四月九月ノ三期

ニ分納スルコトヲ得ルモノトス

第十一條 會計全般ニ涉ル事項ハ役員會ノ決議ニヨリ之ヲ處理スルモノトス

但シ終身會員ノ拂込ミシモノハ會報ノ費用以外ニ使用スルコトヲ得ス

第十二條 本會ハ年一回會報ヲ發刊ス

第十三條 本會々則ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ變更スルコトヲ得サルモノトス

(備考) 本會ノ名稱ハ澤柳前總長ノ命名ニヨル

### ○醫學部良陵學友會會則

一名 稱

良陵學友會トス

### 二、目的

會員相互ノ一致團結ヲ圖リ學術ヲ研究シ且心身ヲ琢磨スルヲ以テ目的トス

### 三、會員

本會ハ東北帝國大學醫學部ノ教授助教講師卒業生學生ヲ以テ組織ス

但シ本學部ニ縁故アルモノハ理事ノ推薦又ハ同意ニヨリテ會員トナルコトヲ得

### 四、役員

會務ヲ處理スルタメ左ノ役員ヲ置ク

名譽會長 一名 (總長)

會長 一名 (學部長)

理事 二十名

理事ハ教授助教講師一名卒業生三名學生十六名ヨリナル

理事ノ任期ハ一箇年トシ毎年四月改選スルモノトス

但學生以外ノ理事ハ會長之ヲ定ム

### 五、事業

豫メ之ヲ定メス理事會ノ決議ニ基キ之ヲ行フモノトス

### 六、會費



年額教授ハ金拾貳圓助教講師ハ金四圓五拾錢學生ハ金四圓五拾錢トス學生ノ會費ハ東北帝國大學醫學部會計係ニ依頼シ授業料ト共ニ納入スルモノトス但シ臨時會費ハ當該理事ニ於テ徵收ス

七、入 會

新入會員ハ入會金參圓ヲ納ムルモノトス

附 則

- 一、卒業生ヨリハ卒業ノ際金五圓ヲ徵收ス
- 二、理事ノ推薦ニヨリ會員トナルモノニ對シテハ會費ヲ徵收セサルコトアルヘシ

○工學部工明會規則

第一章 會 名

第一條 本會ヲ名ケテ東北帝國大學工學部工明會ト稱ス

第二章 目的及機關

第二條 本會ハ東北帝國大學工學部關係者協同團結シテ身神ノ向上ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 本會ノ目的ニ副ハンカ爲メ左ノ機關ヲ設ク

- 一、運 動 部
- 二、會 報 部
- 三、娛 樂 部

第三章 會 員

第四條 本會々員ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一、通常會員 本學部學生及入會ヲ希望スル本學部關係者
- 二、贊助會員 工學部教授助教及講師
- 三、名譽會員 本會ニ於テ特ニ推薦セルモノ
- 四、終身會員 通常會員及贊助會員タリシモノニシテ本學部ヲ去リタルモノ

第四章 役 員

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ會務ヲ處理ス

- 一、會 長 一 名
- 二、副會長 一 名
- 三、理 事 三 名
- 四、委 員 若干名
- 五、評議員 若干名



六、會計主任 一名

第六條 會長ハ本會ヲ統治ス工學部長ヲ推ス

第七條 副會長ハ會長ヲ補佐ス教授中ヨリ之ヲ推ス

第八條 理事ハ本會ノ事務ヲ掌理ス各學科學生中ヨリ一名宛一月中ニ選出ス

第九條 委員ハ各部ノ事務ヲ分掌ス職員各學科學生中ヨリ之ヲ互選ス

第十條 評議員ハ本會重大ノ事項ヲ協議ス會員中ヨリ推薦シ會長之ヲ指名ス

第十一條 會計主任ハ會長監督ノ下ニ本會ノ財務ヲ掌理ス之ヲ本學部會計吏ニ委囑ス

第十二條 役員ノ任期ハ一箇年トシ毎年五月之ヲ改選ス

第五章 會費及會計

第十三條 通常會員ハ一箇年金四圓五拾錢ヲ九月、一月、四月ノ三期ニ分納スルモノトス但

新入會員ハ入會金參圓ヲ第一回授業料納付ノ日ニ納ムルモノトス

第十四條 贊助會員ハ年俸一千分ノ四ヲ九月、一月、四月ノ三期ニ分納スルモノトス

第十五條 終身會員ハ本學部ヲ去ル時金五圓ヲ納ムルモノトス

第十六條 會計ニ關スル重要事項ハ評議員會ノ決議ニヨリ之ヲ處理ス

第六章 規則改正

第十七條 各部ノ細則ハ各部ノ委員之ヲ定メ會長ノ認可ヲ受クルモノトス

第十八條 本會規則ハ評議員會ニ於テ出席者三分ノ二以上ノ賛成者アルニアラサレハ變更スル事ヲ得ス

○法文學部強立會會則

名稱

第一條 本會ハ東北帝國大學法文學部強立會ト稱ス

目的

第二條 本會ハ會員相互ノ智識ヲ交換シ其ノ親睦ヲ圖リ且心身ノ健全ヲ促進スルヲ以テ目的トス

事業

第三條 本會ハ其ノ目的ヲ達センカ爲メ談話運動及娛樂ノ三部ヲ設ク但シ必要ニ應シ他ノ部ヲ増設スルコトアルヘシ

會員

第四條 本會ハ東北帝國大學法文學部教職員、本科生、聽講生其ノ他本學部關係者ヲ以テ之ヲ組織ス

會員ハ之ヲ分チテ左ノ四種トナス

○法文學部強立會會則



一名譽會員 本會ニ於テ特ニ推薦セル者

二、贊助會員 法文學部教授、助教授及講師

三、普通會員 法文學部本科生及聽講生

四、特別會員 贊助會員以外ノ法文學部職員及本學部關係者ニシテ本會ニ於テ適當ト認

ムル者

普通會員ハ卒業又ハ修業ノ際會費トシテ一時金拾圓ヲ納付シ終身特別會員トナルコトヲ得

總會、委員總會及部委員會

第五條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ會務ノ報告其ノ他重要事項ニ付キ協議ス、但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

第六條 豫算及臨時ノ重要事項ハ委員總會ノ決議ニ依リ之ヲ處理ス

第七條 部ニ分テタル會務ハ部委員會ノ決議ニ依リ委員長ノ承認ヲ經テ之ヲ處理ス

第八條 總會ニ提出スヘキ議案ハ開會前一週間前ニ各會員ニ通知スヘシ但シ法文學部學生控所ノ揭示ヲ以テ其ノ通知ニ代フルコトヲ得

第九條 總會又ハ委員總會ノ議事ハ出席會員ノ過半數ヲ以テ決ス、可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

役員

第十條 本會ニ左ノ役員ヲ置キ會務ヲ處理ス

一、會長 一名

二、副會長 一名

三、評議員 若干名

四、委員長 一名

五、委員 若干名

六、幹事 若干名

第十一條 會長ハ法文學部長トス、副會長及評議員ハ法文學部教授又ハ助教授中ヨリ各之ヲ互選ス

委員長ハ評議員中ヨリ委員ハ普通會員中ヨリ各之ヲ互選ス

幹事ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第十二條 會長ハ會務ヲ處理シ總會及委員總會ニ於テ其ノ議長トナル

副會長ハ會長事故アルトキ其ノ職務ヲ代行ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ重要會務ヲ審議ス

委員長ハ會長ヲ補佐シ會務ヲ掌ル



委員ハ委員長ノ指示ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

幹事ハ委員長ヲ補佐シ常務ヲ分掌ス

第十三條 本會役員ノ任期ハ各一箇年トシ毎年五月之ヲ選任ス但シ再選ヲ妨ケス

第十四條 會長ハ會務ヲ處理セシムカ爲メ囑託員ヲ置クコトアルヘシ

會費

第十五條 本會贊助會員タル教授ハ會費トシテ年額金九圓助教ハ金六圓普通會員ハ年額金四圓五拾錢ヲ納付スヘシ但シ四、九、一月ノ三期ニ分チテ納付スルコトヲ得

會則ノ變更

第十六條 本會々則ハ總會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ賛成アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

○舊職員

總長

任 補 轉 免

明治四四、一、一(事務取扱) 同 四四、三、二四

同 四四、三、二四 大正 二、五、九

大正 二、五、九 同 六、八、二五

同 六、八、二五(事務取扱) 同 六、一〇、一五

同 六、一〇、一五 同 八、六、二一

事務官

明治四四、一、一九 大正 五、一〇、二

大正 五、一〇、二 同 六、二、一八(休職)

大正 六、一〇、三〇(兼) 同 一〇、四、一

同 九、一二、四 同 一一、九、二六

同 一一、九、二六(兼) 同 一二、八、三〇

學生監

文學士 岡田良平  
文學士 澤柳政太郎  
文學士 北條時敬  
理學士 小川正孝  
理學士 福原僚二郎  
法學士 黑田賢一郎

法學士 兼子悌次  
文學士 新保德壽  
法學士 菊澤季磨  
法學士 菊澤季磨



明治四四、七、八 同四五、四、一  
 大正七、四、二五 同八、七、二一

理學博士 石原純  
 文學士 古川義天

大正七、七、八 同一一、一〇、一六(死亡)

醫學博士 山形仲藝

理學部 (元理科大学ヲ含ム)

學長及學部長

明治四四、四、二五 大正八、六、三〇  
 大正八、六、三〇 同一二、六、三〇

理學博士 小林孝  
 理學博士 片山正夫

教授

明治四四、六、五 大正八、八、四  
 同四四、七、二九 同二、一、三〇  
 同四四、七、三一 同一二、六、二三(死亡)  
 大正三、五、二三 同一一、八、五(休職)  
 同七、八、二〇 同七、八、二〇

理學博士 佐川榮次郎  
 理學博士 愛知敬一  
 理學博士 石原純  
 理學博士 寺澤寬一

同八、二、六(兼) 同一一、八、七  
 同八、二、二六 同二〇、八、五(死亡)  
 同二〇、四、四 同二〇、四、七(死亡)  
 同二一、一、二二 同二二、三、三一

理學博士 岡田武松  
 理學博士 大湯正雄  
 理學博士 小島鐵藏  
 理學博士 鮫島實三郎

助教授

明治四五、八、九 大正九、三、一五  
 大正七、八、二九 同二〇、四、二五  
 同七、二、二二 同八、二、二二  
 同八、七、一〇 同二一、四、一一(休職)

理學博士 掛谷宗一  
 理學博士 山崎榮一  
 理學博士 青木芳彦  
 理學博士 曾禰武

醫學部 (元醫科大学ヲ含ム)

學長及學部長

大正四、七、一四 同五、四、五  
 同五、四、五 同九、七、二六  
 同九、七、二六 同二一、七、二五

醫學博士 山形仲藝  
 醫學博士 井上嘉都治  
 醫學博士 遠山郁三



附屬醫院長

大正 五、四、五 同 七、五、八  
 同 七、五、八 同 一〇、七、二一  
 同 一〇、七、二一 同 一二、七、二一

醫學博士 山形 仲  
 醫學博士 熊谷 岱藏  
 醫學博士 明城 彌三吉

附屬醫院藥局長

大正 四、七、一四(兼) 同 五、六、二九

藥學士 細井 美水

教授

大正 四、七、一四 同 七、五、八  
 同 四、七、一四 同 一〇、一、三〇  
 同 九、一二、一七 同 一一、五、九(休職)  
 同 一〇、一、三一 同 一二、五、二八  
 同 一一、一〇、一一 同 一二、二、四  
 同 一二、三、三〇 同 一二、三、三一

醫學博士 山形 成  
 醫學博士 西 甫  
 醫學博士 小酒 井光  
 醫學博士 山 上 熊郎  
 醫學博士 敷波 重治郎  
 醫學博士 小玉 龍藏  
 醫學士 佐藤 邦雄

助教授

大正 六、三、二 同 一〇、三、二八

醫學士 佐藤 邦雄

工學部

(元工科大學ヲ含ム)

學長及學部長

大正 八、五、二二 同 一〇、四、四  
 同 一〇、四、四 同 一二、四、四

工學博士 井上 仁吉  
 工學博士 宮城 音五郎

教授

大正 六、九、二二 同 八、二、二三

工學士 佐藤 定吉

助教授

大正 八、五、二二 同 八、二、二三

工學士 湯淺 龜一







外科學  
內科學  
病理解學及內科學

醫學士 廣瀨 速水 宮城  
醫學士 西山 啓吉 東京  
醫學士 星 曉 吾 宮城

工 科

「レーキ」ノ化學及物理的研究  
「フェノール」類ト「アルテヒド」類トノ縮合生成物特ニ「ペーグライト」ニ就テ  
工學士 山本 伊得雄 東京  
工學士 小林 元 義 愛媛

第二 理學部

(氏名イロハ順  
醫ハ醫學士、工ハ工學士)

數學教室

學生

大正九年入學  
北條時重 石川 山本三郎 山梨  
大正十年入學  
諫山三郎 大分 堀 乙次郎 富山  
吉松航太郎 兵庫 高橋敬藏 神奈川  
大正十一年入學  
齋田時太郎 神奈川  
大正十二年入學  
中山 透 長野  
安永 一 兵庫  
齋藤 謙 熊本  
萩原 伸次 山形

中原富藏 鳥取  
福永忠雄 北海道  
大正十一年入學  
河口商次 東京  
奥田行信 廣島  
松村勇夫 兵庫  
鈴木益太郎 東京  
大正十二年入學  
五十嵐成一 宮城  
服部 博 岐阜  
片岡正治 東京  
高見 稔 北海道  
藤原 基 岡山  
三浦 茂 福島  
池村豐治郎 岡山  
堀口五郎 埼玉  
金光 榮 岡山  
淡中益郎 高知  
小林幹雄 長野  
平田 巧 兵庫

內田千城 岡山  
齋田時太郎 神奈川  
辻 和三郎 東京  
山本正三 大阪  
足利卓爾 廣島  
齋藤 謙 熊本  
萩原 伸次 山形  
安永 一 兵庫  
齋藤 謙 熊本  
萩原 伸次 山形

岩淵 進 青森  
江角十ス 鳥根  
岡田達雄 長崎  
吉原 護一 福島  
矢部 威 福島  
酒井十代 新潟  
森元治枝 大阪  
聽講生



物理學教室

學生

大正八年入學

平野正策 岩手

大正九年入學

當山健三 新潟

手塚昇市 栃木

大正十年入學

石井博 東京

川崎德治 栃木

八嶽利助 山形

阿部欣二 宮城

助川巳之七 福島

大正十一年入學

伊藤勝治郎 山形

和田信一郎 秋田

片岡秀吉 兵庫

伊達宗雄 宮城

早川數馬 神奈川

加藏知之 愛知

松山芳治 奈良

澤田義照 德島

岡田群司 千葉

吉浦壽 福岡

濱田秀則 熊本

吉岡脩一郎 石川

岡庭勝造 群馬

野邑雄吉 山口

山本寬一 北海道

兒玉東一 秋田

大正十二年入學

原正健 鹿兒島

小笠原和夫 山形

陸軍員野村政彦 長野

外學生山下八郎 福岡

三浦三索 宮城

彦坂忠義 愛知

聽講生

池田馨雄 新潟

福永五三男 福岡

清水興三松 富山

林威 長野

渡邊政喜 福岡

野口次郎 兵庫

松山多賀一 和歌山

醫養島高 神奈川

工壽時富彌 北海道

帆足竹治 大分

小久保定次郎 愛知

盛田英治 青森

醫陶熾 支那

渡邊清寬 新潟

山中肇 千葉

佐藤瑞穂 東京

鹽澤亮 宮城

鶴田定夫 佐賀

化學教室

學生

大正六年入學

飯田徹 東京

大正八年入學

○學生生徒氏名 理學部



相原 一男 山形

大正九年入學

岩泉脩次郎 宮城

大正十年入學

猪子旋吉 靜岡

小田基礎 兵庫

玉木文男 滋賀

遠藤義臣 東京

佐藤龍猪 愛知

大正十一年入學

伊南世燈 新潟

小山亮清 靜岡

安田三郎 鳥取

相澤安定 新潟

柴田善一 東京

大正十二年入學

渡瀬武男 兵庫

原賢次 東京

浦澤充 宮城

山崎堅一郎 東京

青木仙之助 廣島

菊地哲之助 宮城

今井貞省 新潟

鶴見俊二 愛知

山田勇喜雄 石川

坂本義男 宮城

平尾子之吉 大阪

星野敏雄 新潟

川村實平 東京

丸山智明 宮城

齋藤正一郎 秋田

及川五郎 岩手

鶴飼達治 栃木

赤堀四郎 靜岡

宮崎行藏 宮城

瀨邊惠鏡 愛知

地質學古生物學教室

學生

大正十年入學

高尾彰平 大阪

黑田偉夫 茨城

遠藤隆次 福島

大正十一年入學

泉谷爲之輔 茨城

山本薰太郎 岡山

稻井豐 愛媛

○學生生徒氏名 理學部

岩本健二 宮城

奧貫 大阪

吉田一 茨城

野副鐵男 宮城

古川周 千葉

柴田榮一 東京

深江俊彦 東京

村上增雄 德島

加藤多喜雄 滋賀

小川新太郎 愛媛

岩尾次郎 大分

堀基二 北海道

川上八十太 大阪

宗勇行 東京

丸井榮太郎 大阪

近森誠一郎 高知

名護屋芳郎 北海道

遠藤誠道 福島

岡川馨 滋賀

藤本治義 奈良

外山四郎 新潟

齋藤文雄 岩手

吉田要 福岡

猿渡和雄 福岡

田山利三郎 宮城

尾崎金右衛門 東京



宇野正敏 熊本

植田房雄 大分

聽講生

黒澤守 宮城

岩石礦物礦床學教室

學生

大正九年入學

石崎正義 東京

大正十年入學

林田志賀雄 福岡

大塚喜久治 神奈川

和田謙一 秋田

加藤信 石川

吉木文平 岐阜

吉田博 佐賀

自在丸新十郎 大分

八木次男 岩手

大正十一年入學

飯島兵延 長野

大越隆三 福島

鶴見志津夫 愛知

松浦二耶 岡山

後閑文之助 群馬

荒川謙治 秋田

大山正 宮城

菅啓治 秋田

立花幸吉 宮城

藤崎利雄 秋田

齋藤雄治 岩手

鈴木廉三九 愛知

大正十二年入學

可兒弘一 岡山

内田義信 鳥取

中野長俊 兵庫

上田潤一 新潟

國府健次 福島

志賀義雄 宮城

生物學教室

學生

大正十二年入學

池田助一 佐賀

大植登志夫 大阪

渡邊勇 埼玉

川本信之 東京

山岸八介 長野

小泉辰雄 富山

神保忠男 東京

佐野由巳 大阪

高根勝利 福岡

齋原清 福岡

小野知夫 福岡

高槻俊一 廣島

高槻俊一 廣島

第三 醫學部

學生

氏名イロハ順  
法ハ法學士、工ハ工學士、理ハ理學士  
農ハ農學士、獸ハ獸醫學士、經ハ經濟學士  
▲印ハ陸軍衛生部依託學生  
◎印ハ海軍軍醫學生



○學生生徒氏名 理學部

齋藤正義	群馬	大正五年入學
伴三郎	東京	大正七年入學
田村豐	東京	大正八年入學
▲山岸道四郎	東京	大正九年入學
伊東五一郎	青森	
本間吾市	新潟	
渡邊武雄	秋田	
桂重次	新潟	
角田茂雄	群馬	
理岡崎克己	宮城	
農桑原重雄	熊本	
古澤平作	神奈川	
高橋輝一	廣島	
土屋直	東京	
小林正平	埼玉	
新津六助	長野	
富永守	宮城	
川口秀一郎	廣島	
高橋廣治	宮城	
根本衛	茨城	
岡原芳男	秋田	
谷澤貞次郎	茨城	
古橋豐	栃木	
堀内洪	長野	
宇津城熊之助	埼玉	
堀内	長野	
▲川口清俊	青森	
田中親龍	東京	
◎内田東明	群馬	
草刈兵衛	宮城	
深味三郎	秋田	
寺木小太郎	宮城	

○學生生徒氏名 醫學部

寺内孝二郎	秋田	大正十年入學
尼子國男	東京	
齋藤堅治	北海道	
湯木昇	北海道	
遠藤榮作	宮城	
須田春男	秋田	
伊藤道雄	秋田	
池田吉人	兵庫	
▲外山巖	愛知	
小川良悦	埼玉	
▲渡邊徹	千葉	
米川元重	北海道	
竹内幸次郎	秋田	
會場清睦	秋田	
青山掌多	栃木	
佐久間正一	福島	
遊佐良雄	岩手	
敷波義雄	石川	
森元吉造	青森	
鈴木達	茨城	
須貝龜壽雄	山形	
伊藤長敏	宮城	
今岡健太郎	青森	
農富樫直次郎	新潟	
小川玄益	熊本	
渡部三郎	福島	
高松豐	青森	
工田上實	富山	
阿部忠雄	東京	
齋藤民次郎	青森	
西條實	宮城	
三浦信之	山形	
清水淨	茨城	
瀨尾道真	東京	
鈴木重雄	宮城	
飯島誠司	神奈川	
幡野實	山梨	
大林忠彦	廣島	
渡邊逸三	秋田	
龜田俊雄	千葉	
高橋軍七	宮城	
土井正徳	熊本	



○學生生徒氏名 醫學部

奈良鹿之助	秋田	内藤	滿山形	中川	憲愛知
南雲千秋	新潟	上田	耕作宮城	井村	孫一宮城
工藤祐三	岩手	前島	景一山梨	松井	蔚宮城
福地健二	東京	▲福井	文俊宮城	藤原	一秋田
五味朝一郎	神奈川	手塚	正雄愛知	寺坂	源雄宮城
阿部新一	新潟	佐藤	熙宮城	佐藤	清一宮城
佐藤寛剛	埼玉	佐々木	敬夫島根	菊地	恭助宮城
岸田英一	東京	木内	弘山形	宮城	秀夫福島
宮田直人	群馬	島影	進北海道	清水	武夫宮城
◎遠藤	春雄福島	引地	義男宮城	獸瀬	戸武宮城
鈴木誠	宮城	菅原	文知新潟	角南	春洋岩手
法泉正一	大阪	石田	三郎石川	石川	舍神奈川
井上武	愛媛	牛澤	正五郎宮城	沼倉	武雄宮城
渡邊市次	宮城	河田	信時宮城	田中	英一北海道
高橋庚子郎	宮城	多田	兵藏宮城	村上	英男岩手

○學生生徒氏名 醫學部

大山七三郎	宮城	大石	基一宮城	奥口	衛青森
櫛谷英二	新潟	熊谷	太郎岩手	熊谷	巖東京
胤持帝三	千葉	小向	利三青森	遠藤	幸治福島
出口恒三郎	北海道	赤沼	順四郎福島	佐々木	富雄岩手
佐々木字八	岩手	佐々木	正宮城	佐伯	純一大阪
經木村廉吉	岐阜	工木	村公平埼玉	湯山	博愛静岡
菅原馨	宮城	鈴木	正男千葉	ホーセ、フエンテス	比律賓
大正十二年入學					
池内浩	福島	池田	恭三秋田	今井	信克山形
今井龍雄	宮城	伊東	雄七宮城	伊澤	多三郎岡山
石川善衛	埼玉	早坂	長一宮城	早川	智東京
廣福重三	岩手	馬場	瀧兒宮城	西村	寛北海道
星信夫	宮城	農星	田勝熊本	本郷	保茨城
理堀田誠之助	愛知	徳山	康秀福井	陳慶	餘支那
千葉俊郎	宮城	柳汝	莊支那	小島	信長野
小島祐三	埼玉	大城	俊彦沖繩	大庭	信宮城



○學生生徒氏名 醫學部

大友 寧 宮城	岡部 英一 宮城	和田 義信 茨城
渡部 桂太郎 宮城	渡邊 陸奥男 宮城	若山 雅三 栃木
何 卓 群 支那	加藤 克孝 宮城	吉田 秀世 東京
武田 健次郎 山形	立野 義雄 埼玉	丹野 政吉 宮城
高橋 秀吾 秋田	高橋 德治 千葉	田崎 謙三 福島
農田 口熊雄 秋田	對馬 秀雄 青森	鶴 繁次郎 熊本
筒井 彦彌 福島	津田 一彦 東京	長倉 喜左久 靜岡
中島 信一 富山	村上 三郎 神奈川	氏家 憲介 宮城
海輪 利光 秋田	内木 宇八 香川	内 海 靜 宮城
柳川 重雄 神奈川	山崎 正文 愛知	山川 義信 埼玉
松尾 春雄 福岡	布施 正 山形	藤 永 綿 山口
今野 清一 栃木	今 四方一 青森	海老名 敏明 山形
遠藤 敏夫 宮城	枝 法 栃木	新井 定治 埼玉
朝倉 久松 山形	安部 公男 宮城	青木 啓彦 神奈川
荒木 省吾 大阪	齋藤 利喜衛 山形	佐藤 勉 東京
佐藤 美歌旬 群馬	佐藤 千三郎 宮城	佐藤 蟬 宮城

佐藤 照一 青森	佐藤 權三郎 山形	櫻田 信行 青森
▲櫻田 正雄 宮城	齋藤 弘 宮城	坂 猶興 宮城
北川 芳夫 北海道	北村 一郎 宮城	喜 多 要 奈良
三 藤 寛 愛媛	三 田 弘 茨城	白戸 彌七郎 青森
森 本 茂 兵庫	茂木 三郎 群馬	▲關口 利一 埼玉
鈴木 甚二郎 宮城		

専攻生  
大正十一年入學  
大家 武夫 福井

第四 工學部 (氏名イロハ順)

機械工學科 學生

大正八年入學  
淺田 恒彦 東京

大正九年入學

○學生生徒氏名 工學部



開歲修吉	廣島	矢作龍二郎	東京	佐藤護	宮城
森 偵	千葉				
大正十年入學					
板橋 壽	茨城	原田總米	兵庫	神谷健雄	島根
鴨田 薰	大阪	吉田又一郎	奈良	内藤尙翁	鹿兒島
山脇俊之	廣島	山田義承	和歌山	山口澤次郎	鹿兒島
山下菊次	鹿兒島	前田末禿夫	兵庫	松本長藏	東京
藤井夏雄	三重	荒木信耶	東京	新井隆一	群馬
甘利文夫	山梨	宮川久雄	東京	清水勇生	福岡
清水新平	東京	白神 衛	東京		
大正十一年入學					
市原通敏	高知	今治一雄	兵庫	石井正樹	廣島
長谷川良吉	大分	富次 亮	山口	吉方謙一郎	秋田
高田三郎	福岡	玉城良男	宮城	武藤房芳	神奈川
小山 悌	宮城	小野惣平	福島	工藤誠三	北海道
山下希一	兵庫	矢鳥 達	長野	藤崎誠司	新潟

電氣工學科

學生

大正八年入學

斗夕澤賢治 岩手

大津間太郎 山口

八幡清兵衛 茨城

○學生生徒氏名 工學部

三二九

江間 巖	静岡	相原章一	宮城	佐々木達郎	山形
沙見一郎	愛媛	平山 肇	静岡	關 四郎	新潟
大正十二年入學					
石川文壽	神奈川	早坂浩一郎	山形	堀 江 勉	宮城
狩野季雄	宮城	川畑球陽	鹿兒島	中川平二	新潟
長澤雄次	石川	梅原半二	愛知	登坂六郎	山形
奥吉榮壽	鹿兒島	松山德藏	三重	古瀬健男	愛知
後藤一雄	熊本	郷田兼則	鹿兒島	安住重吉	宮城
佐藤策一期	新潟	齋藤哲夫	山形	齋藤房吉	鹿兒島
酒匂潤三	鹿兒島	宮川恒雄	大阪		



大正九年入學

西村雄二 山口

阪上俊雄 和歌山

水口春二 東京

鳥影 武 福島

大正十年入學

伊東嘉八 佐賀

岩竹松之助 神奈川

石田 稔 岡山

長谷川勇雄 兵庫

新谷卓爾 宮城

西村英一 大分

加藤 優 香川

依藤義登 鳥取

曾 啓 新 支那

宇田新太郎 富山

海野謙四郎 茨城

大久保 謙 栃木

岡本克己 岡山

矢島彌太郎 長野

藤田信雄 熊本

五味淵良治 栃木

齋藤正一 秋田

櫻井健治郎 宮城

御代日出生 秋田

島田正巳 福岡

日根野 漢 三重

瀨谷美光 福島

大正十一年入學

孝川郁平 新潟

今村重三郎 青森

萩野市三郎 北海道

中澤正三郎 宮城

風岡文吾 東京

萱場深造 宮城

高梨正雅 鳥根

梅田俊雄 鹿兒島

毛呂邦次 東京

小林治一郎 東京

菊谷秀雄 鹿兒島

石川 靜一 宮城

稻葉 榮 新潟

加藤 關治 宮城

横須賀善司 茨城

奥 元 宮城

小田島藤藏 宮城

佐々木 博 秋田

大正十二年入學

田口 稔 秋田

窪田三郎 宮城

小曾根貞三 群馬

相田英三郎 新潟

平野 亮 静岡

岩崎規矩雄 山形

張 鴻 誥 支那

菅野源吾 宮城

田中重朗 新潟

岡村靜次 静岡

落合宜之 新潟

齋藤正雄 宮城

永井健三 宮城

松前重義 熊本

今野 堅 宮城

佐藤 勝 宮城

平賀兵二 山形

岩 泉 成 宮城

渡邊龍司 東京

柏原榮一 富山

高山健樹 宮城

大友 巖 宮城

照井達夫 青森

宮内 茂 山形

化學工學科

學生

大正九年入學







○學生生徒氏名 法文學部

大正十二年入學

農岩崎直砥	東京	磯貝フサ	東京	磯山幸次郎	栃木
井上文三郎	大阪	今川尙	石川	石橋誠	東京
石川進	福島	石崎喜代登	北海道	秦慧玉	兵庫
林芳門	石川	二宮得	神奈川	堀龍忠郎	宮城
大石兵太郎	滋賀	大川茂	宮城	大内經雄	宮城
緒方則雄	熊本	岡野光一	富山	小倉須佐雄	宮城
奥本新太郎	山形	渡貫良治	千葉	川端固法	北海道
川村安太郎	富山	金矢武吉	宮城	粕谷伊八	埼玉
韓載南	朝鮮	橫澤三郎	宮城	理吉野橋三	大阪
吉野惺	宮城	立花祐雄	宮城	高橋徳一郎	岩手
高橋次郎	北海道	田村豊	栃木	玉城肇	宮城
武田貞良	兵庫	竹本吾市	岡山	法國田實	鹿兒島
中川長藏	山形	中村昌	東京	中山春男	三重
中瀬武	福島	工村井洪一	山形	野間彦藏	福島
黒沼義一	岩手	鐵良逸	大阪	黒瀬ツヤ	東京

○學生生徒氏名 法文學部

大正十二年入學

桑原國朝	大分	窪田俊吉	山口	熊山巖	靜岡
山梨武夫	靜岡	安田富春	長崎	前田爲壽	宮城
丸山徳翁	長野	松井一枝	愛知	松木太郎	宮城
榊澤久之	宮城	小橋一雄	熊本	小立馨	兵庫
江田俊雄	東京	栗津惠觀	秋田	赤井力也	宮城
赤塚勝次	熊本	阿蘇伊佐巳	山形	安積昭夫	兵庫
天野雄二	大阪	網本勇吉	兵庫	齋藤悌	福井
齋藤敏一	富山	櫻庭總一郎	青森	佐々木太郎	宮城
菊地英文	宮城	菊田良吉	宮城	工菊澤季生	三重
三浦孝	東京	宮城定	宮城	志賀達	福島
島尾孝雄	香川	島田平五郎	福岡	一柳俊郎	山口
平澤重胤	愛知	鈴木敦吾	福岡	鈴木權三郎	東京
聽講生					
入江堂允	岡山	井奈清一	東京	池田暉	東京
橋爪徳松	和歌山	新野敏一	宮城	高橋柳太	長野



○學生生徒氏名 法文學部

竹内青三	新潟	野村道夫	山形	山本光顯	福岡
山本命	福井	松岡久雄	宮城	松木貞之助	宮城
小松八四郎	宮城	東次郎	山形	齋藤實	岐阜
相良千明	福岡	鈴木兵部	山梨		
	専攻生				
	大正十二年入學				
高里良恭	沖繩	佐藤瑞明	宮城		

○卒業生氏名

(イロハ順)

理學士 數學科

大正三年七月卒業	大上茂喬	和歌山	田淵一郎	香川
	長尾晉志朗	香川	山口眞夫	京都
	(病)小島鐵藏	三重	鈴木敏一	兵庫
大正四年七月卒業	平川仲五郎	靜岡		
大正五年七月卒業	岩瀬喜作	千葉	武邊松衛	岡山
	北村友圭	石川	牧田らく	京都
大正六年七月卒業	林 範二	愛知	岡田良知	兵庫
	内田良道	兵庫	黒須康之介	埼玉
			生山惠雄	山梨
			柴田寛	千葉
			中島宗治	奈良
			片山壯一	宮城
			南部 琮	福井
			鈴木敏一	兵庫

○卒業生氏名 理學士



○卒業生氏名 理學士

三三八

大正七年七月卒業  
岩付寅之助 新潟

(長井上利憲 鹿兒島)

守田常直 東京

大正八年七月卒業

石川克巳 宮城

成實清松 福井

山鳥藤治郎 京都

物理學科

大正三年七月卒業

大久保準三 徳島

岡田雄二 東京

小倉淑成 東京

山下安太郎 埼玉

眞島正市 香川

松田和三 東京

松田 孜 愛知

佐藤進三 東京

佐々木成材 東京

大正四年七月卒業

伊藏貞治 宮城

橋 四郎 大阪

宗 正路 福岡

三枝彦雄 山梨

大正五年七月卒業

本郷寅太 宮城

田所芳秋 高知

海野三朗 山形

桑原 浩 山形

山田光雄 北海道

丸江 仁 石川

今野清兵衛 宮城

佐藤 兌 岩手

佐藤公平 岡山

大正六年七月卒業

野附雄次郎 山形

山本 勇 秋田

松下徳次郎 兵庫

齋藤省三 宮城

城谷陸造 廣島

大正七年七月卒業

五百旗頭 啓 兵庫

小川眞治郎 滋賀

田中壽一 福岡

小林正助 東京

遠藤美壽 福島

木津正彦 大分

木戸 潔 京都

大正七年十二月卒業

中光 所一 廣島

大正八年七月卒業

伊東 清 大分

山邊曉之 山形

佐藤 充徳 鳥

化學科

大正三年七月卒業

富山 保 茨城

岡崎芳太郎 神奈川

小野平八郎 宮城

武田泰助 宮城

長岡寛統 福島

蒔田宗次 三重

○卒業生氏名 理學士

三三九



○卒業生氏名 理學士

古屋亮三	山梨	大正四年七月卒業	和田梓之介	山口	黒澤惇造	秋田
石原富松	宮城		山田桂輔	新潟	國分五郎	宮城
柳澤七郎	東京		柴田勝三郎	兵庫		
齋藤惣九郎	愛知	大正五年七月卒業				
高岡齋三	三重		(死)松島勝	徳島	城所徳祐	東京
(死)木村俊吉	愛媛		三橋斗機雄	千葉	黒田チカ	佐賀
		大正六年七月卒業				
西川九藏	京都		豊田今吉	香川	渡邊卓郎	埼玉
田澤敏次郎	青森		永海佐一郎	鳥根	村山梅吉	栃木
野澤房敏	東京		工藤義廣	山形	安藤源次	山形
佐古眞一	三重					
		大正七年七月卒業				
市川恕平	長野		小野嘉七	京都	岡龜助	兵庫
鎌田清重	愛媛		何良藻	支那	向山隆福	山梨

地質學科

海野正	茨城		(死)吉村悌治	鳥取	井上正一	兵庫
鄭貞文	支那	大正八年七月卒業	丹下ムメ	鹿兒島		
門脇博明	鳥根		四方敬一	兵庫	立石金吾	熊本
高橋彦一	静岡		丹野恒治	宮城	山田延男	岐阜
近藤蒨樹	東京		下村竹一郎	京都	杉野目晴貞	宮城
		大正四年七月卒業				
早坂一郎	宮城		(死)日下部全隆	山形	近藤次彦	愛知
小岩井兼輝	茨城		菅原公平	岩手		
		大正五年七月卒業				
今井半次郎	愛媛		渡邊萬次郎	福島	恒久清彦	大分
山口孝三	宮城	大正六年二月卒業	三澤正夫	茨城		
石原義男	愛知	大正六年七月卒業	西川覺	高知		

○卒業生氏名 理學士



吉井正敏 熊本 藤村幸一 香川  
大正六年十一月卒業

森下正信 大阪  
大正七年七月卒業

山本幸次郎 福岡 福田連 栃木  
嵯峨一 岐阜 住友恒一 徳島

大正八年七月卒業

西川冠治郎 北海道 遠山主税 福井 大草正司 徳島  
加藤謙次郎 岩手 夏間純亮 熊本 青地乙治 石川  
諸井信明 秋田

大正九年七月學士試験合格

姓名ノ上ニ記セル文字ハ各  
其主トシテ學修セル科目ヲ  
表ハス以下同シ

(物)出射 榮岡山 (化)橋本吉郎 廣島 (地)鯉川睦之助 東京  
(物)小山民造 兵庫 (化)岡崎克巳 宮城 (物)渡邊三吉 山口  
(化)川村 愷三重 (化)和直綱 鹿兒島 (化)樫本竹治 岡山  
(數)中原庄五郎 兵庫 (化)中島惟中 兵庫 (物)内田泰郎 茨城

(數)大石喬一 静岡 (化)草間時蕃 東京 (化)久保田桐造 滋賀

(物)八代五郎造 東京 (化)山口俊彦 三重 (地)矢部 茂 東京

(地)松尾敏臣 福岡 (地)眞壁三郎平 神奈川 (化)小竹無二雄 富山

(化)棚山茂三郎 岩手 (物)菊田多利男 宮城 (地)重宗亮一 東京

(化)森尾森一 北海道 (地)瀬戸國勝 宮城 (地)關根鐵之助 秋田

大正九年十二月學士試験合格

(化)辻本孫三郎 三重

大正十年三月學士試験合格

(化)壹岐敏夫 宮城 (化)岩永源作 福井 (化)今井行雄 長野

(物)服部 鼎三重 (地)半澤正四郎 宮城 (岩)濱田傳吉 愛媛

(化)新坂清助 宮城 (化)富永晴海 福岡 (物)岡田元三 群馬

(化)小野田 忠 福島 (化)若木六郎 山形 (化)河上益夫 富山

(化)加瀬 勉 千葉 (化)金子英雄 長野 (岩)叶多正敏 福島

(數)田島正一 福井 (物)高柳太助 山形 (化)高橋 務 宮城

(岩)高原正臣 鳥根 (數)相馬良馬 山形 (化)中園 環 福岡



(地)長尾巧	(數)内野篤造	(岩)山口録次	佐賀
(物)松村龍雄	(岩)古川彌六	(物)枝木勇雄	岡山
(化)秋山禮三	(岩)佐伯祥一郎	(物)木谷夢一	福井
(化)木村季治	(數)清野耕治	(物)須田院次	群馬
(物)鈴木益廣	(岩)鈴木正利		

大正十年七月學士試驗合格

(化)押上昌喬	(化)奥田美德	宮城
---------	---------	----

大正十一年三月學士試驗合格

(化)林嘉吉	(化)箱守新一郎	茨城	(化)堀田誠之助	愛知
(岩)鳥山武雄	(化)尾形輝太郎	山形	(化)川合眞一	東京
(化)米倉武男	(化)高松晃	茨城	(岩)田島六郎	石川
(岩)立上秀二	(岩)多田義員	香川	(物)竹前源藏	山形
(物)田中友市	(化)武藤武四郎	茨城	(岩)海谷秀雄	福岡
(地)野村七平	(物)緒方信助	熊本	(物)大澤興美	徳島
(物)大竹玄吾	(數)大島重太郎	神奈川	(數)山崎榮作	和歌山

(數)前原重秋	(化)松原多摩喜	東京	(化)松生義勝	大阪
(物)増本量	(化)小林正造	大阪	(數)花小木曾玉喜	岐阜
(物)江原廣	(物)明坂謙一	大阪	(物)佐藤貞彌	山形
(岩)佐藤猷造	(化)菊池末太郎	青森	(化)重松哲二	大分
(物)志賀孝平	(物)白鳥勝義	千葉	(物)樋口盛一	岡山
(物)關戸信吉		石川		

大正十一年六月學士試驗合格

(地)近藤繁	新潟
--------	----

大正十一年七月學士試驗合格

(化)米谷榮松	(化)小坂乙吉	宮城	(化)澄谷泉	廣島
(地)田上政敏		熊本		

大正十二年三月學士試驗合格

(地)伊能芳雄	(化)石丸三郎	福岡	(化)英六角龍雄	神奈川
(物)服部定一	(物)服部正臣	岐阜	(化)林喬	愛知
(物)濱田篤一郎	(物)堀川初夫	福岡	(數)陳建功	支那



○卒業生氏名 理學士

(岩)梶沼甫	北海道	(物)加藤達之	東京	(數)加藤平左衛門	愛知
(數)神谷仁	山口	(化)上關三郎	岩手	(物)金澤進三	新潟
(物)茅誠司	神奈川	(化)柏木民次郎	神奈川	(數)香取繁雄	岡山
(岩)吉野樽三	大阪	(數)高橋丑治	岩手	(物)高橋金之助	宮城
(岩)橋孝	北海道	(數)田中保房	新潟	(化)染谷均一	埼玉
(化)中村九郎	長野	(化)村井淳吉	福島	(岩)野田亮熙	佐賀
(數)野村猛	宮城	(化)久米悅二郎	徳島	(地)久世誠一	東京
(岩)山内信雄	京都	(岩)山崎直樹	福岡	(岩)益田峰一	神奈川
(化)藤瀬新一郎	東京	(化)深谷廣一	秋田	(數)尼寺源之助	兵庫
(物)明坂英夫	大阪	(物)齋藤敬吉	栃木	(地)齋藤齋	福島
(化)佐藤久次	北海道	(數)北島美雄	福井	(化)白井俊明	東京
(物)森金之助	滋賀	(化)鈴木亨	静岡		
(化)和田喜親	北海道	(化)中山毅	宮城		

大正十二年六月學士試験合格  
醫學士  
大正八年七月卒業

伊藤鐵治郎	愛知	伊藤祐一	宮城	岩本正樹	佐賀
稻葉龍三郎	新潟	池上芳次郎	長野	保坂三郎	山梨
小川巖	愛知	岡部豊吉	山形	渡邊孝喜	福島
渡邊政之助	和歌山	上春松緑	香川	四十宮龍藏	徳島
(死)吉田秀	青森	高畑基	岡山	高橋寛	静岡
高井公民	岐阜	嵩敏	和歌山	内藤勝	徳島
中井哲太郎	岐阜	長倉秀彦	鹿兒島	中澤房吉	北海道
宇賀武俊	大阪	梅田眞一	岐阜	黒川鷹揚	佐賀
山本和成	富山	前田健造	鹿兒島	松原文四郎	東京
小玉作治	秋田	近藤正俊	岐阜	天木順吉	愛知
齋藤豊治	宮城	佐藤基	宮城	木村直治	秋田
木島嘉一郎	東京	三友義雄	埼玉	美坂兼照	鹿兒島
森田治郎吉	三重				

大正九年六月學士試験合格

西山啓吉	東京	吉田重三郎	青森	廣瀬速水	宮城
------	----	-------	----	------	----

○卒業生氏名 醫學士



大正九年七月學士試驗合格

伊藤成義	石川	五十嵐孝吉	秋田	原國武	鳥根
橋本欽治	神奈川	橋本宗坪	兵庫	二階堂一種	宮城
本間勝兒	岩手	堀口操	群馬	富田慶平	埼玉
小川茂敏	千葉	渡邊剛	東京	若林喜多雄	宮城
桂重鴻	新潟	加藤岩根	栃木	柏原正巳	高知
依光馨	高知	吉松駿一	東京	高橋友次	奈良
立澤喜代治	東京	中瀬隆造	大阪	灘波睦	岡山
村島泰一	福島	大花丑吉	福島	大瀧郁三郎	埼玉
屋代秀夫	群馬	升水好文	神奈川	船木武一	北海道
小池正朝	東京	小松原彬	茨城	後藤久右衛門	山形
兒玉作左衛門	北海道	荒清	福島	新井寬治	栃木
新井昌平	埼玉	酒井菊雄	福島	木村直輔	宮城
三神正藏	岩手	清水茂	埼玉	瀨之口涉	鹿兒島
住友勝一	徳島	鈴木雄平	新潟		

大正十年六月學士試驗合格

田代壯岩手 三科正臣 埼玉

大正十年七月學士試驗合格

伊藤鷺見	宮城	伊藤正	宮城	稻野宇憲	三重
稻葉榮三郎	栃木	泉山幸吉	青森	林俊輝	岐阜
芳賀額幸	宮城	長谷山誠一郎	秋田	廖温仁	臺灣
劉四期	京都	小野純一	北海道	吉田至孝	福島
竹村清雄	大阪	竹田秀一	福島	高橋武衛	千葉
那谷長次	石川	内山泰	新潟	大栗實	栃木
山口友藏	北海道	藤田健三	兵庫	後藤嘉夫	徳島
小林康司	群馬	齋藤靜	福井	鮫島勇雄	鹿兒島
佐藤六郎	宮城	佐々木清右衛門	宮城	佐藤長松	宮城
木村修三	石川	三原四郎	福岡	柴田信	山形
烏田研一	佐賀				

大正十年七月學士試驗終了



ドミンコ、カハヨシ 比律賓

大正十年十二月學士試験合格

峰 秀樹 長崎

大正十一年六月學士試験合格

板倉 駿 東京

堀口 修輔 群馬

熊澤 兵二 東京

三瓶 春雄 宮城

大正十一年七月學士試験合格

飯島 文宣 神奈川

千葉 政康 宮城

高橋 久 宮城

塚本 榮七郎 宮城

梨木 武夫 新潟

村上 勝五郎 岩手

井波 鍊四郎 石川

野村 利治 愛知

大庭 眞咲 福島

黒川 恵寛 滋賀

黒川 利雄 北海道

黒川 廣重 鳥根

楠木 武男 東京

増永 信夫 東京

松井 仁 北海道

小室 乙次 茨城

小村 倉藏 北海道

有村 正勝 鹿兒島

荒藤 義秀 茨城

青木 富男 長野

佐藤 龜太郎 秋田

菊地 武雄 北海道

菊池 精三 茨城

菊池 捷二 岩手

木村 謙次 宮城

清水 義治 新潟

庄司 謙二 宮城

目黒 秀文 福島

鈴木 主計 福島

ロレンソ、マラリット 比律賓

パンヒロ、レハシ 比律賓

大正十二年三月學士試験合格

細谷 雄二 山形

大正十二年五月學士試験合格

川田 理 埼玉

吉田 太助 埼玉

大正十二年六月學士試験合格

岡田 恒吉 山形

木内 悟一 徳島

大正十二年七月學士試験合格

一見 越夫 三重

泉 治郎 岩手

今村 健作 石川

島海 浩 千葉

豊島 義徳 廣島

大橋 宏一 宮城

大江 利雄 宮城

大庭 榮雄 福島

小山 卓郎 福島

桂島 忠良 宮城

多田 三郎 宮城

高山 良男 長野

田澤 芳三郎 茨城

武藤 完雄 茨城

村上 幸次 山形



○卒業生氏名 醫學士

氏家俊介	宮城	猪苗代六郎	宮城	前廣至朗	廣島
増田六之助	東京	藤澤武雄	宮城	今野正男	宮城
小峰茂三郎	埼玉	小林專一	東京	小室十郎	宮城
國領武三	北海道	寺島清七	長野	相澤齋治	宮城
有泉藤次	山梨	淺田豊	東京	笹田衛	青森
齋藤勳	岡山	佐藤純一郎	岩手	佐藤薫	群馬
木原玉汝	千葉	北村雄二郎	東京	岸芳男	群馬
菊地伊太郎	栃木	源龍眠	新潟	宮内俊三	千葉
諸根英一	福島	關根眞一	埼玉	鈴木重武	青森
ヒリモ、アキラ	比律賓				

工學士

機械工學科

大正十一年三月學士試験合格

林半一郎	岐阜	星源藏	群馬	戸祭圭太郎	長野
富澤英群	馬	沼知福三郎	茨城	横山武人	山形

奈良武男 宮城 中村清 佐賀 見目濱司 栃木  
 近藤杉樹郎 新潟 北島義介 秋田

大正十一年八月學士試験合格

野尻義邦 山形

大正十一年十一月學士試験合格

武内三郎 宮城 有馬護陸 宮城

大正十二年三月學士試験合格

泉嘉三郎	兵庫	一戸文雄	東京	池田正二	滋賀
月岡東一	長野	成瀬政男	千葉	武藏倉治	秋田
倉科幸二郎	長野	前田松文	福井	遠藤信	宮城
阿部敬二郎	福岡	三木鐵夫	兵庫	正田卓治	東京

電氣工學科

大正十一年三月學士試験合格

鳥山四男	長野	岡部金治郎	愛知	渡邊一治郎	秋田
河合賢次	兵庫	鴨下末吉	東京	武山喜三郎	石川
田口橋次郎	秋田	中川菊次郎	愛知	中島昌夫	東京

○卒業生氏名 工學士



大河内重助	福島	秋山省三	徳島	東谷武人	山口
關根文吉	埼玉				
大正十一年七月學士試験合格					
岡田 忍	宮崎				
大正十一年九月學士試験合格					
原田保之助	栃木				
大正十二年三月學士試験合格					
伊東忠吉	山形	十合晋次	奈良	沼倉秀穂	宮城
大谷元夫	群馬	小野 孝	福島	神谷知足	愛知
高橋松次	群馬	中島和敏	福島	村井盛太郎	静岡
熊川 巖	群馬	山司房太郎	宮城	牧野政直	富山
古谷 丹	東京	寺村康三	長野	新 文夫	京都
清水重志	長野	杉山一男	埼玉		
大正十二年五月學士試験合格					
秋保 勳	宮城				
大正十二年六月學士試験合格					

化學工學科

陶山儀策	山形	林 茂助	山形	橋本武麿	福島
大正九年七月卒業					
石垣耕造	宮城	小河義夫	廣島	奥田昌信	京都
大森武夫	新潟	今野爲次	宮城	阿部末吉	岩手
宗片 孟	山形	菊池三郎	鹿兒島	椎名七郎	茨城
佐々木 宇兵衛	宮城				
鈴木林之助	宮城				
大正十年三月卒業					
市瀬元吉	兵庫	二瓶 久	宮城	大内 勳	宮城
渡邊和氣	福島	渡部 尙一	北海道	谷口和良	和歌山
高原省吾	岡山	上田貞敏	静岡	窪田豊胤	宮城
山川 彰	岐阜	松井明夫	宮城	升澤圓平	宮城
舌橋進三郎	東京	佐藤富治	岩手	木船育太	山口
平岡宗威	神奈川				
大正十年五月卒業					
小高治一	群馬	松島義積	徳島		



○卒業生氏名 工學士

大正十一年三月學士試験合格		岩重三郎 東京	西田進 埼玉	吉村正利 東京
		村田寛次 三重	山本伊得雄 東京	安樂岡清造 群馬
		藤澤一郎 新潟	小林元義 愛媛	齋藤毅 宮城
		齋藤孝 東京	勞乃心 支那	李仲柏 支那
		松岡省吾 山口	朱學范 支那	平田穰 栃木
大正十一年八月學士試験合格		小林正美 東京		
大正十二年二月學士試験合格		船木榮青 青森		
大正十二年三月學士試験合格		岩崎高雄 熊本	猪口金次郎 山形	大島竹治 新潟
		大原重周 東京	加藤文治 富山	田中且夫 山梨
		中村益雄 北海道	中村靜雄 石川	村井洪一 山形
		山本勇三 東京	保田熊三 大阪	福井達耶 廣島
		阿部政五郎 群馬	北原正平 長野	菊澤季生 三重
		三橋藤太郎 千葉	篠崎平馬 茨城	森本桑逸 北海道

○附 表 學生生徒人員表 (大正十二年九月三十日調)

種 別	大 學 院			理 學			學 科		
	理科ニ關スル事項	醫科ニ關スル事項	工科ニ關スル事項	計	數 學 科	物 理 學 科	化 學 科	地 質 學 科	生 物 學 科
大正五年入學									
大正六年入學									
大正七年入學									
大正八年入學									
大正九年入學									
大正十年入學									
大正十一年入學									
大正十二年入學									
計	一	一	一	三	二	一	二	一	一
大正十二年入學									
大正十三年入學									
計	一	一	一	三	二	一	二	一	一
大正十三年入學									
大正十四年入學									
計									

○附 表 學生生徒人員表



○附 表 學生生徒人員表

總計	法文	學部			醫部	部
		計	化學工學科	電氣工學科		
一						
三						
一三		四		三	一	三
二	六四	×	二	×	×	貸 八
※×	一五九	支×	支	支×	※	三 四
一	〇	支×	支	支×	〇	一 〇
支比	一六六	支×	支	支×	〇	支 三
二	二九八	支	支	支	二	一 六
支	三	支	支	支	二	支 六
×比	三六	支×	支	支×	×	支 三
四	九一	支	支	支	×	支 一
專						
女	二二	專				女 四
一女	二二	專				一女 四
一						

備考 表中專ハ專攻生、貸ハ貸費生、×ハ海軍造兵學生、※ハ海軍造機學生、支ハ支那人、專支ハ專攻學生  
ニシテ支那人、比ハ比律賓人、〇ハ昨年九州帝國大學醫學部ヨリ轉入、員ハ陸軍省依託員外學生、女  
ハ女子ヲ表ハシ生徒欄中專攻生以外ノモノハ聽講生ナリ

卒業生 (學士試驗合格者ヲ含ム) 年度別人員表

大正十二年訓  
九月三十日

種別	理學部				計
	數學科	物理學科	化學科	地質學科	
大正三年卒業	八	九	七		二四
大正四年卒業	一	四	八	五	一八
大正五年卒業	四	九	一五	五	二二
大正六年卒業	六	五	一〇	五	二六
大正七年卒業	三	八	二	五	一二
大正八年卒業	三	四	九	七	二三
大正九年卒業	二	六	一	七	二八
大正十年卒業	四	八	一六	九	三七
大正十一年卒業	四	一三	一六	九	四二
計					

○附 表 卒業生 年度別人員表







○附 表 學生生徒道府縣別人員表

香	德	和	山	廣	岡	鳥	鳥	富	石	福	秋	山	青	岩
川	島	山	口	島	山	根	取	山	川	井	田	形	森	手
	二													
	二	二	二	五	六	一	三	三	四		七	六	二	五
一			一	三		一		二	二	一	一	一	一	八
										一				
一	四	二	三	六	四	二	二	三	一		五	八	二	三
一			二		一			三	二	一	一	四	一	二
三	八	三	八	四	一	四	五	一	九	二	二	二	一	一
										專	專			
										一	二	三	一	一
三	八	四	八	四	二	四	五	一	九	一	二	一	一	一

備考 表中專ハ專攻生ヲ表ハス  
生徒欄中專攻生以外ノモノハ聽講生ナリ

大正十二年入學者學歷類別表

(大正十二年九月三十日調)

愛	高	福	大	佐	熊	宮	鹿	沖	朝	計
媛	知	岡	分	賀	木	崎	兒	繩	鮮	
一	二	八	五	一	三		一			一五一九四
										五二二七專
										一一八八
										一八一專
										三七
										七〇五專
										二三四專
										七二八
										四

○附 表 學生生徒道府縣別人員表















○附 表 學生生徒年齡表

部 學 醫		部				
科	學	學 生 科 物	科 學 質 地		科 學	
			大正十年入學	三三、		一〇二二、
大正九年入學	三四、	一一二二、	〇三四、	一〇		
大正八年入學	二六、	九一九、	六三四、	六		
大正七年入學	二五、	七二五、	七二五、	一七二四、		
大正六年入學	三六、	六二二、	五二八、	四二四、		
大正五年入學	三二、	三二二、	八二七、	四二四、		
大正四年入學	四八、	八一八、	八二五、	四二四、		
大正三年入學	二七、	九二六、	一一二七、	四		
大正二年入學	二九、	三二九、	三二九、	三		
大正一年入學	三一、	八二六、	一一二八、	一一		
大正十年入學	三三、	九二三、	九二六、	五		
大正九年入學	三八、	二二二、	五二五、	五		
大正八年入學	三二、	〇二〇、	一一二四、	二		
大正七年入學	二八、	九一九、	七二二、	五		

○附 表 學生生徒年齡表

部 學 工		部				
科	學	部 學 工 氣 電		科 學 工 械 機		
		大正十年入學	二七、	四二二、	五二五、	二
大正九年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正八年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正七年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正六年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正五年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正四年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正三年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正二年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正一年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正十年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正九年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正八年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正七年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正六年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正五年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正四年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正三年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正二年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		
大正一年入學	二七、	四二二、	五二五、	二		



○附 表 學生生徒年齢表

學部	法文科	大正三年入學	四三、	七二〇、	一三四、	四	四八、	五三〇、	一一三五、	三
法文科	大正三年入學	四三、	七二〇、	一三四、	四	四八、	五三〇、	一一三五、	三	
備考	專ハ專攻生ヲ表ハス									
	生徒欄中專攻生ヲ除キタル數ハ聽講生ヲ表ハス									
學部	法文科	大正三年入學	四三、	七二〇、	一三四、	四	四八、	五三〇、	一一三五、	三

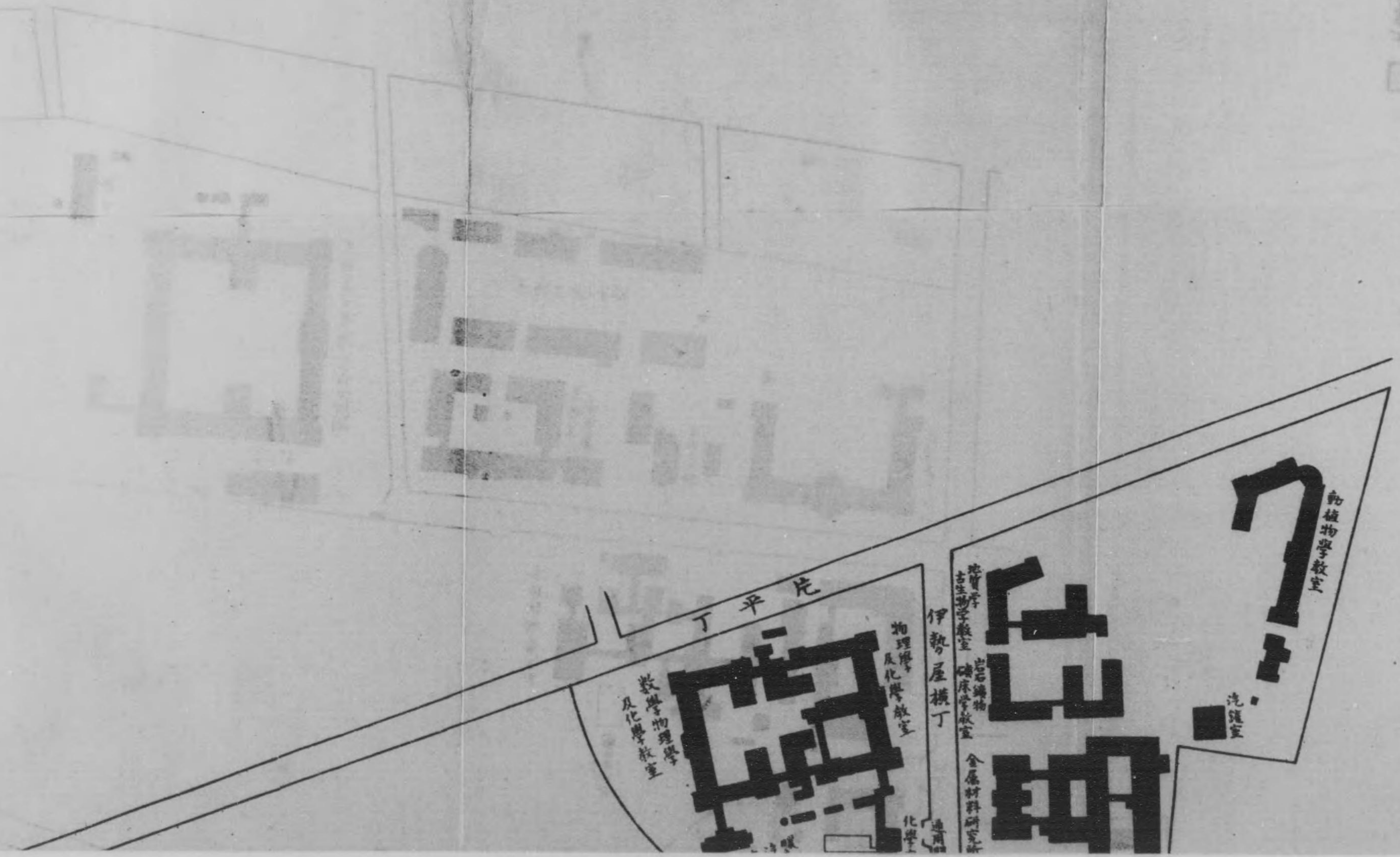




東北帝國大學理學部及工

理學部  
工學部

丁平片

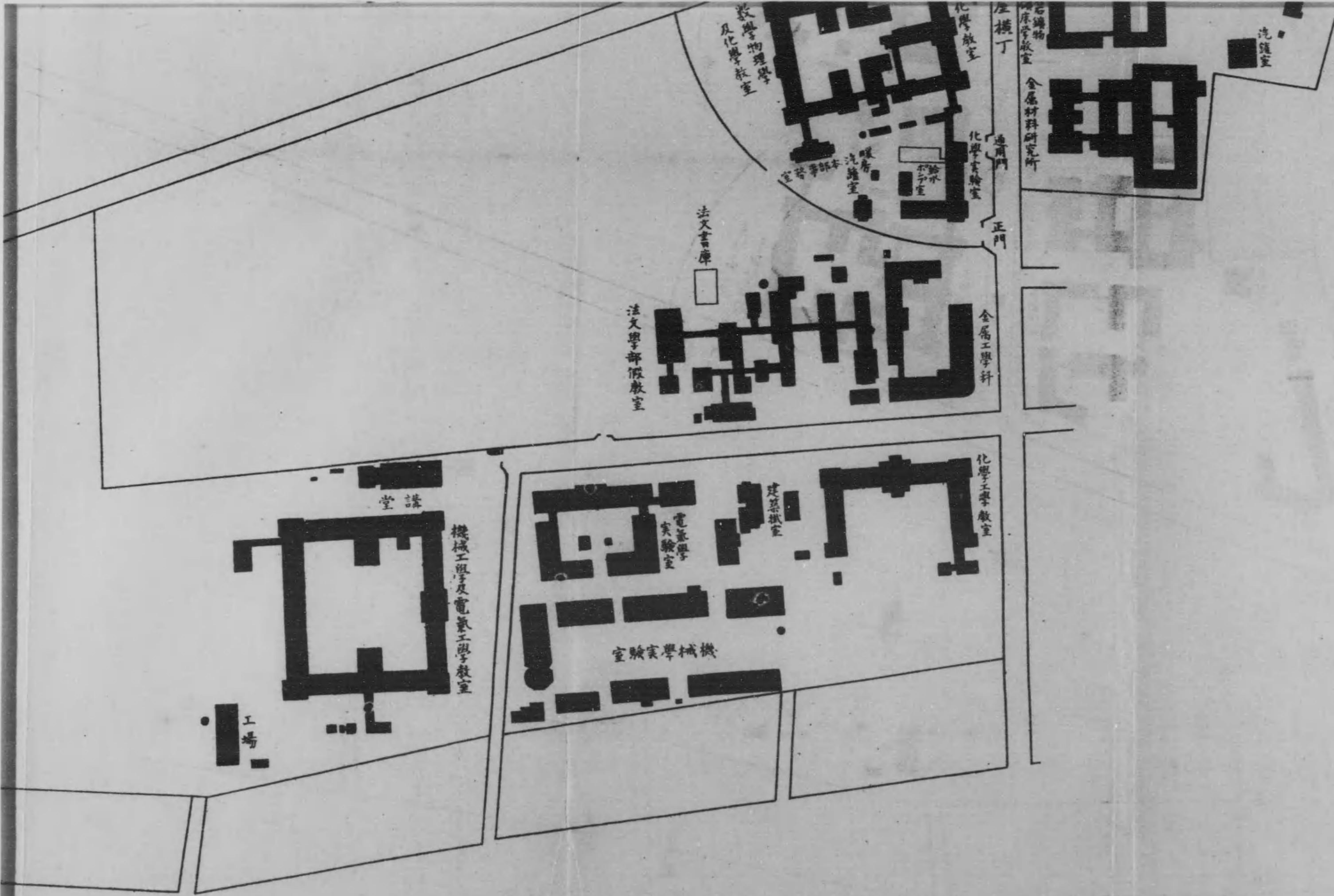








# 工學部及工學部平面圖



縮尺二千四百分一

■ 建物  
□ 工事中建物



山  
田

岩石鑄物  
鑄造學教室  
金屬材料研究所

屋橫丁  
通南門  
正門

數學物理學  
及化學教室  
化學實驗室  
汽機室  
給水  
排水室  
室務部本

法文書庫  
法文學部假教室

金屬工學科

化學工學教室

建築試室

電氣學  
實驗室

機械學實驗室

機械工學及電氣工學教室

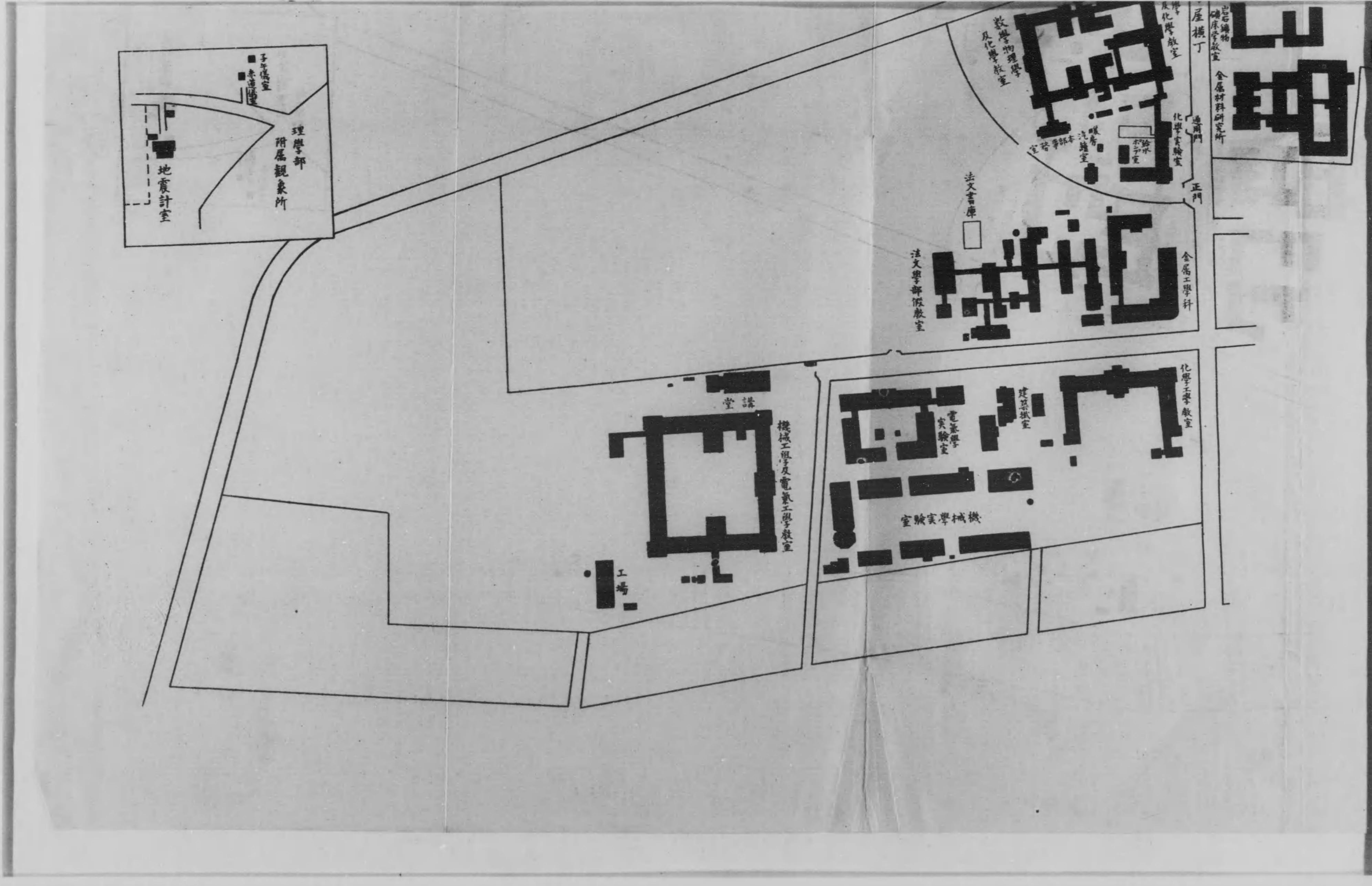
講堂

工場

理學部  
附屬觀象所

地震計室

子午儀室  
赤道儀室



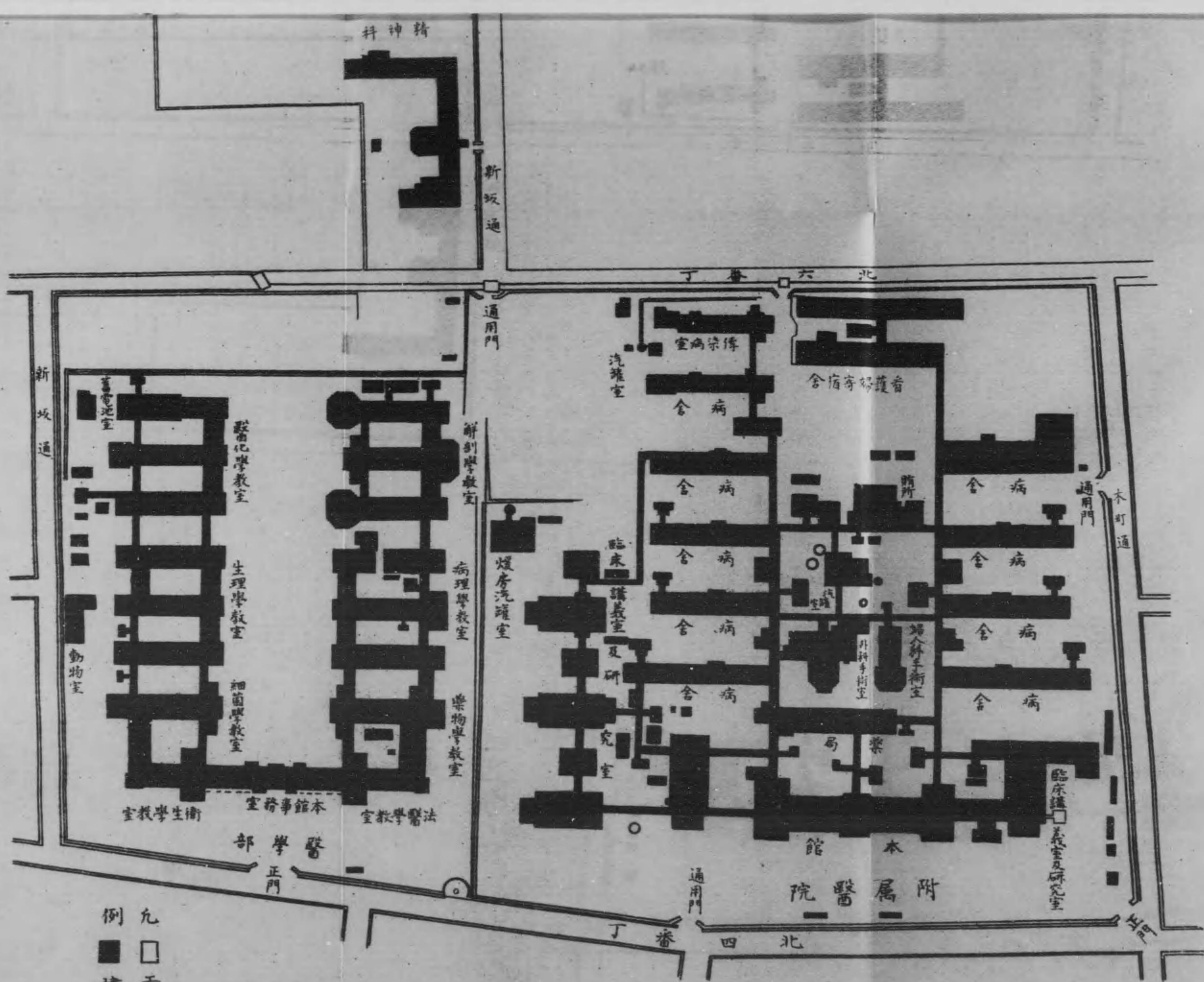






北帝國大學醫學部平面圖

縮尺二千四百分一



- 例  
 九 □ 工事中建物  
 ■ 建物



平野博士著

讀本



大正十二年十二月二十三日印刷

大正十二年十二月二十五日發行

定價金壹圓參拾錢

# 東北帝國大學

仙臺市教樂院丁六番地

印刷者 安齋進吉

仙臺市教樂院丁六番地

印刷所 東北印刷株式會社

電話 八二八〇七番

仙臺市國分町百六十八番地

賣捌所 丸善株式會社仙臺支店

東京本店、京都大阪福岡各支店

仙臺市大町四丁目

同 金港堂 藤原佐吉



281  
別庫  
13

18.3.31